

授業科目名： 体育実技総合（陸上競技）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：櫻田 淳也
			担当形態：単独
科 目	①教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） ②教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	①教科に関する専門的事項 ・体育実技 ②体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>陸上競技の走・跳・投の理論的理解と技術習得を目的とし、示範出来るようになることを目指す。走については、短距離走を中心に「走る技術」について理解し、学ぶ。「走」は一般的に「走るだけ」と捉えられがちであるが、実際には「姿勢」や「接地の仕方」、「脚を運ぶタイミング」等々、多岐にわたる技術が存在する。その技術を習得し、リレーやハードル走にも応用していく。「跳」については、走り幅跳びと走り高跳びの技術習得の中で、跳躍の技術を理解し、学ぶ。走り幅跳びは水平方向、走り高跳びでは垂直方向の跳躍についての理解を深める。「投」については、砲丸投を通して、「投擲物を遠くに投げる技術」について理解し学ぶ。なお、到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「走」について理論的に理解し、その技術を示範出来るレベルで実践することが出来る 2. 「跳」について理論的に理解し、その技術を示範出来るレベルで実践することが出来る 3. 「投」について理論的に理解し、その技術を示範出来るレベルで実践することが出来る 			
<p>授業の概要</p> <p>各種目の技術やトレーニング方法、競技ルールなどについても学習する。「走」については、速く走るための技術習得や、体育の授業で必要となるタイム計測の方法、ピストルの打ち方等々、ルールについても学ぶ。「跳」については跳ぶための基本的な技術を理解し、走り幅跳びや走り高跳びのルール、計測方法などについても学ぶ。「投」については、物体を遠くに投げる基本的な技術を理解し、砲丸投のルールについても学ぶ。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p>			
<p>第1回：ガイダンス 授業の方法、内容について理解する。</p>			
<p>第2回：短距離走① 脚の使い方、上体の構えを身につける。加速の仕方を覚える。</p>			
<p>第3回：短距離走② スタートブロックの使い方を覚える。ピストルのならし方・計時の仕方を確認し、100m走を経験する</p>			
<p>第4回：リレー① ジョギング等でバトンパスを身につけ、直走路でのバトンパスを試行する</p>			
<p>第5回：リレー② 曲走路でのバトンパスを身につけ、全体を通してリレーを行う</p>			
<p>第6回：ハードル走① ハードルを通して基本動作を身につけ、適切な高さ・インターバルでハード</p>			

	ルを跳んでみる
第7回：ハードル走②	スターティングブロックを用いてスタート練習をし、50mハードル走を行う
第8回：中・長距離	ペース配分について理解し、ペース走を行う。
第9回：走幅跳①	走幅跳の基本的な動きを身につける
第10回：走幅跳②	走幅跳のルールを学び、実際のルールに従って記録を測定する
第11回：走高跳①	はさみ跳びの基本動作を身につけ、背面跳へ移行させる
第12回：走高跳②	走高跳のルールを学び、実際のルールに従って記録を測定する
第13回：砲丸投	砲丸投の基本動作を理解し、グライドを用いた投擲を行う
テキスト	
特になし	
参考書・参考資料等	
	「これで完ぺき！陸上競技」繁田進著 ベースボールマガジン社
学生に対する評価	授業内での課題に取り組む姿勢（授業態度点）が重視されるほか（50%）、 実技による授業の理解度も考慮する（50%）。

授業科目名： 体育実技総合(水泳)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：時任 真一郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 「水」に触れ、①「水」の様々な特性を理解し、②自身（実施対象者）の特性（年齢、体力、泳力）を理解し、それら特性に必要なかつ合わせた水中での動きを修得するとともに、水泳・水中運動の学習方法を理解する。			
授業の概要 私たちの身の回りにはプール（民間、公的機関を問わず）、川、海など「水」、「アクア」に接する機会は意外と多い。そのような恵まれた環境にも関わらず、「水」の様々な特性について理解が乏しいため、「水泳」に対する嫌悪や「水」に事故が起こる現状がある。この講義では、「水」と「人の体」の様々な特性について実践を通じて、理解するとともに、最大限に活かす方法について、浮き姿勢や4泳法実践を通じて学ぶ。 また、身近にある「水」を活用したスポーツ・運動を生涯のツール・ユーティリティのひとつとするために、様々な対象者へ指導できる特性の理解と実践によって指導法を学ぶ。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回：水慣れ 10分間泳測定 【到達目標】水の特性に触れ、10分間泳測定から自身の現状を確認・分析できる 第2回：浮き姿勢（だるま浮き、伏し浮き、背浮き）の実践 【到達目標】水の物理的特性について理解する 第3回：二足歩行の動きを応用した水中移動（水中ウォーキング、エレメンタリーバックスロトーク）の実践 【到達目標】陸上でできる動きを水中で実施し、水の物理的特性と水中姿勢、動きの限界を理解し、エレメンタリースロトークを理解する 第4回：四足歩行の動きを応用した水中移動（いぬかき、平泳ぎ）の実践 【到達目標】泳げる哺乳動物の動きを参考にし、水中での移動（泳ぐ）方法について理解する 第5回：水中姿勢の違いと水中姿勢の変位（ローリング）から呼吸法の実践 【到達目標】水中姿勢（伏し浮き、背浮）の違いから呼吸の状態を実践し、姿勢変位（ローリング）を活用した呼吸法を理解する 第6回：水中姿勢の変位（ローリング）を応用したクロールの実践 【到達目標】クロールの導入として、クロール時の水中姿勢の変位（ローリング）と呼吸法について理解する			

第7回：背泳ぎの泳法実習

【到達目標】背泳ぎのキック、ストロークについて理解を深め、泳法を習得する

第8回：平泳ぎの泳法実習

【到達目標】平泳ぎのキック、ストロークについて理解を深め、泳法を習得する

第9回：バラフライの泳法実習

【到達目標】バラフライのキック、ストロークについて理解を深め、泳法を習得する

第10回：クロールの泳法実習

【到達目標】クロールのキック、ストロークについて理解を深め、泳法を習得する

第11回：水泳技術の学習

【到達目標】泳法以外（スタート、ターン、水中姿勢等）について理解を深め、技術を習得する

第12回：水中運動を楽しむため運動強度管理と安全管理（救助法）

【到達目標】4泳法以外での水中運動を実施し至適運動強度を理解するとともに、安全管理としての救助法について実践を通うじて理解する

第13回：4泳法のまとめ・チェックおよび10分間泳測定

【到達目標】4泳法について25m完泳 自身の泳力、体力を把握し10分間泳をシミュレートし実践評価する

定期試験 実施しない

テキスト

中学校学習指導要領 保健体育編 文部科学省

中学校学習指導要領 保健体育編 体育編 文部科学省

水泳指導教本 大修館書店

参考書・参考資料等

学校体育実技指導資料第4集「水泳指導の手引き（三訂版）」文部科学省

https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyu_jitsu/1348589.htm

講義に関連して適宜配布する資料

学生に対する評価

以下の内容を総合的に評価する。

定期試験は行わない。

平常点評価：実技（10分間泳、浮き姿勢、4泳法25m泳、救助法）（60%）、筆記（各回の学修内容、テキスト・参考書・参考資料内容、授業内配布物）（20%）、授業への積極的な取り組み（20%）について、これら実技（技能）、理解度および積極的な取り組みを総合的に評価する。

遅刻、無断での途中退席、早退等は授業態度（取組、積極性）として評価されることがある。

授業科目名： 体育実技総合(体つくり運動・器械運動)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：浅野 佑樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 体つくり運動の内容と目的を理解し、実践できるようになる。また、マット運動の回転系や巧技系の基本的な技、跳び箱運動の繰り返し系や回転系の基本的な技ができるようになるとともに、その指導方法を理解できるようになる。			
授業の概要 本授業では「マット運動」と「跳び箱運動」の内容を取り扱う。中学校・高等学校保健体育科教員として「器械運動」を指導する際に最低限必要な技能を習得するとともに、その指導方法を学習する。また、課題として設定された「技」を行うために必要な筋力や柔軟性を養うための体つくり運動を実践し、体力の向上を図る。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回：オリエンテーション（授業の実施方法と成績評価の説明） 第2回：マット運動（1）前転の技術解説と練習方法の実習 第3回：マット運動（2）後転の技術解説と練習方法の実習 第4回：マット運動（3）倒立と平均立ちの技術解説と練習方法の実習 第5回：マット運動（4）側方倒立回転の技術解説と練習方法の実習 第6回：マット運動（5）ほん転技群の発展技の技術解説と練習方法の実習 第7回：跳び箱運動（1）跳び箱運動の導入 第8回：跳び箱運動（2）繰り返し系技の技術解説と練習方法の実習 第9回：跳び箱運動（3）回転系技の技術解説と練習方法の実習 第10回：各自課題練習（マット運動と跳び箱運動） 第11回：技能到達度の確認と解説（マット運動の組み合わせ技） 第12回：技能到達度の確認と解説（マット運動の回転系） 第13回：技能到達度の確認と解説（跳び箱運動） 事前事後学習として、授業で紹介した体つくり運動の内容を1時間程度行う。 授業内で紹介した「技」の技術解説を予習、復習する。			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

体操競技のバイオメカニクス（土屋純著，2021年）

学生に対する評価

平常点評価 50%

毎回の授業での取り組みの姿勢について評価する。

技能点評価 50%

授業内で身につけた技術の習熟度を評価する。

授業科目名： 体育実技総合(ダンス I)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：穂積 典子 担当形態：単独
科 目	①教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育） ②教科教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定めるエアロビックダンスの 科目区分又は事項等	①教科に関する専門的事項 ・体育実技 ②体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生活習慣病の予防や健康寿命延伸のために習慣的な運動の実施が望まれるが、運動の継続実施は容易なことではなく、フィットネスクラブ等においても入会後半年以内の退会者が少なくないのが現状である。その一方で、エアロビックダンス（以下、エアロビクス）をはじめとするグループエクササイズは、楽しみながら実施できる運動として根強い人気があり、フィットネスクラブ等においてグループエクササイズ参加者は退会率が低いとの報告もある。本授業では、エアロビックダンスの実技を通じて、グループエクササイズ指導者としての資質を身に着け、超高齢化社会を迎えた我が国において運動指導者として社会で活躍できることを目指している。そのために具体的に以下を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エアロビクスのプログラム構成、運動強度の変化要素について理解する。 2. エアロビクスに用いる音源の特性を理解し、楽曲構成に合わせて動くことができる。 3. エアロビクスの基本動作を習得し、見本としてふさわしい明確な動作の実演ができる。 4. 口頭および身振りによる明確な動きの指示（キューイング）ができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>第10回までは主にエアロビクスの体験を通じて、動作スキルを習得する。また、体験を通じて様々なプログラムや指導プロセスがあることを学習し、参加者および指導者の両方の目線でエアロビクスについて理解を深める。第11回以降は指導者として求められるプレゼンテーションスキル、キューイングスキルの習得を通じてグループエクササイズ指導者育成を図るとともに、日本フィットネス協会認定資格GFI（グループエクササイズフィットネスインストラクター）ADBI（エアロビックダンスベーシックインストラクター）の取得も視野に入れた指導者育成を図る。</p>			
<p>授業計画【1 授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：授業の到達目標の確認、エアロビックダンスの入門クラス体験</p> <p>第2回：エアロビックダンスのステップ構成、基本ステップ（ローインパクト）の反復練習①</p> <p>第3回：基本ステップ（ローインパクト）の反復練習②</p> <p>第4回：ウォーミングアップの目的と構成、ダイナミックストレッチとスタティックストレッチ</p>			

第5回：メインパートのプログラム（フリースタイル）
 第6回：運動強度の変化要素と強度の変化を伴うプログラム例（ハイインパクトの導入）
 第7回：メインパートのプログラム（コンビネーション）①基本動作を組み合わせた初級レベル
 第8回：メインパートのプログラム（コンビネーション）②アレンジを加えた中級レベル
 第9回：グループエクササイズ用音源の特性と楽曲構成に合わせたプログラミング
 第10回：フィットネスダンス（課題曲に振り付けたエアロビックダンス）体験
 第11回：プレゼンテーションスキル①見本となるエクササイズ姿勢と適正な可動域
 第12回：プレゼンテーションスキル②明確な動作とキューイング
 第13回：プレゼンテーションスキル③課題動作の指導体験（実技試験）

テキスト

ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論 日本フィットネス協会編

参考書・参考資料等

GFIのためのグループエクササイズ指導理論 日本フィットネス協会編

学生に対する評価

平常点50% 到達目標達成度 25% 授業内試験 25%

授業科目名： 体育実技総合(ダンスⅡ)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：穂積 典子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>エアロビックダンス（以下、エアロビクス）の指導は、指導者自らが動きながら次々と指示を出し参加者を誘導し、適切な運動強度の維持と筋バランスの取れた動作選択を行わなければならない、優れた身体機能だけでなく、観察力、判断力、コミュニケーションスキル等を必要とする。本授業ではダンスⅠで習得した技術と知識をさらに高めて、卒業後すぐに現場で活躍できるグループエクササイズ指導者の育成を目標としている。そのための到達目標として、以下を設定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ウォーミングアッププログラムの指導ができる 2. 32カウントシンメトリーコンビネーションを、運動強度の維持と筋バランス、および楽曲構成に配慮しながら指導することができる。 3. 運動強度の変化要素を用いて運動強度をスムーズに上昇させるプログラムを指導できる。 4. 参加者を観察、修正、確認、動機づけし、次なる指導へつなげる『指導の循環』を実践できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>既習のエアロビクスの基本動作およびプレゼンテーション、キューイングスキルをさらに高めるとともに、本授業履修後はすぐにでもフィットネスクラブ等の運動施設で指導ができるよう、具体的なプログラム作りと学生同士での指導ドリルを中心に授業を進める。また『指導の循環』について理解を深めて実践することで、運動継続の意欲向上につながる指導者育成を目指している。なお、本授業の受講により日本フィットネス協会認定資格、GFI（グループエクササイズフィットネスインストラクター）のADI（エアロビックダンスインストラクター）取得に必要な実演および指導力の習得も可能である。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：グループエクササイズの現状と指導者に求められる資質とは（講義）、プログラム体験</p> <p>第2回：ウォーミングアップ（規定のプログラム）を指導する</p> <p>第3回：ウォーミングアップ指導ドリル（1対複数名での実践指導）</p> <p>第4回：32カウントシンメトリーコンビネーションとインサート法について</p> <p>第5回：32カウントシンメトリーコンビネーションのプログラミング</p> <p>第6回：32カウントシンメトリーコンビネーションの指導展開方法</p>			

第7回：コンビネーションの指導ドリル（1対複数名での実践指導）
第8回：運動強度を上昇させるプログラムの体験およびプログラム作り
第9回：第7回で実演したコンビネーションを元に、運動強度を上げるプログラムを実演指導
第10回：第9回の課題の復習と授業内実技試験①
第11回：指導の循環（指示→観察→修正→確認→動機づけ）と実演指導ドリル
第12回：第9回の課題に指導の循環をプラスした実演指導ドリル（1対複数名での実践指導）
第13回：第12回の課題の復習と授業内実技試験②

テキスト

ADBI・ADIのためのエアロビックダンスエクササイズ指導理論 日本フィットネス協会編

参考書・参考資料等

GFIのためのグループエクササイズ指導理論 日本フィットネス協会編

学生に対する評価

平常点50% 到達目標達成度 25% 授業内試験 25%

授業科目名： 体育実技総合（柔道）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：久保田 浩史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>柔道は、相手と組みあって、投げたり抑えたりして相手を制し、その攻防を通して心身を鍛える日本の武道の一つである。授業では、柔道衣を介して相手との身体接触がある中での攻防という柔道の特性を理解し、安全に柔道の授業を行うための指導法を理解するとともに、柔道の基本的な技術を身につけることを目指す。基本的な技術を習得しつつも、攻防および自由練習を行い、その合理性を体得する。</p> <p>到達目標は次の通りである。柔道は力の伝え方、身体動作、受け身など、日常生活や他の運動種目にも役立つ要素があるため、様々な場面に役立つことを理解し、説明することができる。柔道の特性および柔道に付随する傷害、事故発生時の対処法を説明することができる。柔道の基本的な技術を習得し、その説明をすることができる。技の理合いを理解し、安全で楽しい柔道の攻防を行うことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>柔道の受け身や体さばきといった基本的な動作、投げ技および固め技の基本的な技能、それを活かした安全で自由な攻防を通して、柔道の技の理合いについて学習する。また、柔道授業において留意すべき点、特に安全面への配慮について学ぶ。柔道の受け身、体さばきなどの基本動作、投げ技および固技を習得するだけでなく、柔道の成り立ち等についても学習する。また、短時間、短期間で、柔道に必要な動きを身につけるために、柔道の要素を取り入れた体づくり運動やゲーム形式のプログラムも扱う。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：柔道の礼法、基本姿勢、基本動作、バランス崩しゲーム</p> <p>第2回：受け身（後受け身、横受け身）、柔道に即した体づくりの動きやゲーム</p> <p>第3回：固め技ゲーム、体さばきゲーム</p> <p>第4回：投げ技（導入編、出足払い）、受け身（前方回転受け身）</p> <p>第5回：投げ技技能の習得（膝車、支釣込足）</p> <p>第6回：投げ技技能の習得（大外刈）、固技技能の習得（袈裟固）</p> <p>第7回：投げ技技能の習得（体落）</p> <p>第8回：投げ技技能の習得（大内刈、小内刈）、固技技能の習得（横四方固）</p> <p>第9回：投げ技技能の習得（大腰、釣込腰）</p> <p>第10回：投げ技技能の習得（背負投、一本背負投）、固技技能の習得（上四方固）</p>			

第11回：投技技能の習得（払腰、内股）

第12回：投技技能の習得（連絡技、変化技）

第13回：投げ技、固め技の総復習、および柔道試合審判法

定期試験 適宜、授業の中で投げ技、固め技の完成度を試験する

テキスト 特に指定しない

参考書・参考資料等

- ・柔道上達ブック（成美堂）
- ・柔道の安全指導（全日本柔道連盟）

学生に対する評価

以下の3点から総合的に評価する。

- ・平常点（授業への取り組み具合）、50%
- ・技能評価、30%
- ・課題レポート、20%

授業科目名： 体育実技総合（剣道）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 鷹見（福本）由紀子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 剣道の所作に表れる精神性を理解し，相互尊重の精神を身につける。さらに，正確な基本動作を習得し，対人的技能を習得する。最終的に，学校指導現場で生かせる練習法について理解し実践できるようにする。			
授業の概要 剣道の歴史的背景から成り立つ，武士道的な考え方を理解する。基本動作の習得から対人的技能へと発展させる。技術の習得にはグループ学習で技術確認を行い，対人調整力とコミュニケーション能力を向上させるなかでその指導方法も身につくようにする。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回：ガイダンスおよび基本動作を身に付ける。 第2回：剣道着・袴・剣道具着装の仕方について理解し，実践する。 第3回：剣道着・袴・剣道具の着装を復習する。竹刀を使用した打ち込みを実践する。面をつけて一本打ちの技を中心に実践する 第4回：仕掛け技，切り返しを行う。 第5回：抜き技，返し技の原理を理解し，習得する。 第6回：すり上げ技，打ち落とし技，出ばな技の原理を理解し，習得する。 第7回：五法の構えの特徴を理解し，上段の構えからの打突を行う。 第8回：機会を意識しながら，仕掛け技と応じ技のまとめを行い，自己の得意技を考える。 第9回：試合方法・規則を理解し，試合稽古を行ってみる。 第10回：個人戦の勝敗決定方法を理解し，リーグ戦による個人戦を行う。 第11回：団体戦の運営要領を理解し，リーグ戦による団体戦を行う。 第12回：トーナメントによる団体戦を行う。 第13回：実技試験と講評，振り返り 定期試験は実施しない			
テキスト 剣道指導要領（全日本剣道連盟），剣道授業の展開（全日本剣道連盟）			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 授業への参画度 50%，課題達成度 40%，実技試験 10%			

授業科目名： 体育実技総合（サッカー）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：新海 宏成 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 生徒への示範となるサッカーの個人技能を習得するとともに、サッカーの基本的特性や理論を理解しながら学校体育で実施されるサッカーにおける指導法を身につける。			
授業の概要 サッカーの足でボールを操作するという特性を理解し、中・高等学校体育での授業展開に必要な理論や指導方法について、実技やデータおよびICT機器を活用した演習の実践的体験を通して学ぶ。具体的には以下の6点を中心に取り組む。①サッカーの楽しさや難しさといった特性理解 ②サッカーへの多用な関わり（する・観る・支える） ③教師と生徒による授業や試合の運営方法 ④各種個人技能の特性理解と習得 ⑤プレーの原理・原則の理解 ⑥ゲームの構成要素の変化とプレーの変化の関係性への理解			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回：サッカーの基本的特性および学習指導要領の解説と理解、個々の技能レベルの確認 第2回：基本的なゲームルールと審判法の解説と理解 第3回：ボールキックとトラップの理論と実践 第4回：ボールフィーリングとドリブルの理論と実践 第5回：個人プレーの原理・原則 第6回：集団プレー（攻撃・守備）の原理・原則 第7回：人数の違いによるゲームの変容 第8回：コートの違いによるゲームの変容 第9回：ゴールの違いによるゲームの変容 第10回：ブラインドサッカーの体験と理解 第11回：ルールの工夫と個人技能の習得 第12回：ルールの工夫と集団技能の習得 第13回：まとめのゲーム、授業の総括 定期試験は実施しない。			
テキスト 特に指定しない			
参考書・参考資料等			

「サッカー競技規則（日本サッカー協会）」、「中学校体育 サッカー指導の教科書（東洋館出版社）」、「中学校学習指導要領解説・保健体育編（文部科学省）」、「高等学校学習指導要領解説・保健体育編 体育編（文部科学省）」、その他は授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

平常点：30%、課題点：70%

- ・平常点は、プレーへの積極性やグループワークでの取り組み等を総合的に判断し評価する。
- ・課題点は、授業内で提示する複数の課題（レポートや動画等の提出物）を評価する。

授業科目名： 体育実技総合（テニス）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：堀内 昌一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>体育実技総合（テニス）では、スキルや身体能力の向上を目指すだけでなく、ルール、審判法、チームワーク等、生涯スポーツ実践の素養を修得する。更に、視覚教材による技術及びゲーム分析、フットワーク等トレーニング法などを通して必要不可欠なスポーツ科学理論の理解を深める。また、基礎体力の向上及び健康の維持増進を図ると共に、心身の変化について理解を深める。到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) テニス及びトレーニングを正しいフォームで安全に実施することができる。 2) テニス及びトレーニングを通じて基礎体力の向上、健康の維持増進に励むことができる。 3) テニス及びトレーニングによる心身の変化について理解し、説明をすることができる。 4) 生涯にわたってテニスやトレーニングに取り組み実践力を身につけることができる。 5) テニス及びトレーニング、ゲームによってコミュニケーション能力を身につけることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>テニスの実践を通じて、基礎体力の向上及び健康の維持増進を図るとともに、心身の変化について理解を深める。また、身体運動・スポーツの魅力や楽しさを味わい、生涯にわたって日常生活の中にスポーツや運動・トレーニングをとり入れることができる実践力を高める。基本的な技術をフィールドボールにおいて徹底的に反復練習を繰り返し修得する。その後対峙して、相手とライブボールで調整力、修正力を駆使しラリー練習を行う。毎回授業の後半はゲーム性を伴った練習を行う。ゲームにおける技術を目指し、戦術的な指導も行う。ポジショニング、リカバリーなど身体能力も指導し、それに必要なトレーニングも毎回行う。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：講義及び実技、オリエンテーション（授業の概要説明、受講上の注意点）</p> <p>第2回：講義及び実技、テニスの歴史、特性、ルール、用具の理解、基本技能</p> <p>第3回：実技 基本技能（ショートテニス、ラケットワーク、フットワーク）</p> <p>第4回：実技 基本技能（フォアハンドストローク、ポジショニング、リカバリー）</p> <p>第5回：実技 基本技能（バックハンドストローク、ポジショニング、リカバリー）</p> <p>第6回：実技 基本技能（ボレー、ポジショニング、リカバリー）</p> <p>第7回：実技 基本技能（スマッシュ、サービス、フットワーク）</p>			

第8回：実技 ゲームの実践と審判法1（シングルスゲーム） 第9回：実技 ゲームの実践と審判法2（ダブルスゲーム） 第10回：講義及び実技（シングルスゲームリーグ戦方式、フットワークトレーニング） 第11回：講義及び実技（シングルスゲームアップダウン方式、フットワークトレーニング） 第12回：講義及び実技（ダブルスゲームリーグ戦方式、フォーメーション） 第13回：講義及び実技（ダブルスゲームリーグ戦方式、実技テスト）
テキスト なし
参考書・参考資料等 「テニス丸ごと一冊戦術1, 2, 3, 4」 ベースボールマガジン社 堀内昌一著 「テニス丸ごと一冊サービス増補版」 ベースボールマガジン社 堀内昌一著 「もっと上達するテニス」 ナツメ社 堀内昌一著
学生に対する評価 平常点50%、ゲーム50%（シングルス・ダブルスの結果及びグループワークの取り組み20%、実技テスト20%、レポート10%）を総合的に評価する。レポート評価の視点：内容が大切な事はもちろん、資料を利用した場合、必ず最後にその参考文献（インターネットからの場合はURLと閲覧日）をつける事。

授業科目名： 体育実技総合（バスケットボール）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：班目 春彦 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>バスケットボールは数ある球技スポーツ種目の中でもとりわけ競技人口の多い種目であり、世界各国で男女を問わず競技が行われている。また、中学校学習指導要領及び高等学校学習指導要領においては、ゴール型の球技として取り扱う種目の一つとして示されている。「体育実技総合（バスケットボール）」では、保健体育科の教員やスポーツ指導者としてバスケットボールを指導する上で習得しておくべき基本的な知識及び技術並びにそれらの指導法を実技の実践を通じて学習する。なお、到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) バスケットボールの個人技術を実演・指導することができる。 2) バスケットボールの基本的な戦術をゲームの中で遂行できる。 3) バスケットボールの基本的なルールを説明し、ゲームを運営できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>「体育実技総合（バスケットボール）」では、バスケットボール指導に必要な知識と技術を習得することを目的とする。授業では、まずシュート、ドリブル、ピボット、パスといった個人技術を習得し、アウトナンバーの攻防やミニゲームを通して応用力を養う。さらに、オフザボールの動き、スクリーンプレーといった集団戦術を学び、3x3やオールコートゲームを通して実践力を高める。これらの練習と並行して、効果的な練習方法や指導の基礎となる知識も習得する。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：個人技術①（シュート）、アウトナンバーの攻防</p> <p>第3回：個人技術②（ドリブル）、アウトナンバーの攻防</p> <p>第4回：個人技術③（ピボット）、ミニゲーム</p> <p>第5回：個人技術④（パス）、ミニゲーム</p> <p>第6回：個人技術の確認・練習及び実技テスト①</p> <p>第7回：集団戦術①（オフザボールの動き）、ミニゲーム</p> <p>第8回：集団戦術②（スクリーン）、ミニゲーム</p> <p>第9回：3x3のゲーム①（ルールの理解とゲーム運営）</p> <p>第10回：3x3のゲーム②（チーム戦術の遂行）</p>			

第11回：オールコートゲーム①（ルールを理解とゲーム運営）

第12回：オールコートゲーム②（チーム戦術の遂行）

第13回：複合的技術の確認・練習及び実技テスト②

テキスト

必要に応じて資料を配付する。

参考書・参考資料等

- ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）
- ・ 高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）

学生に対する評価

平常点（授業への取り組み）：50%

確認テスト：20%

実技テスト：30%

授業科目名： 体育実技総合（バレーボール）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：高橋 宏文 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
基礎技術における動き方やボールのコントロールの感覚についての学習を通して技術の実践力を身に付けていく。そして、チームスポーツという視点からこのゲームの特徴を理解し、連係プレーやゲームにおける技術の実践方法について学習する。こうした学習を通じて、ゲームではコミュニケーション能力を発揮したプレーを実践できるようにしていく。			
授業の概要			
はじめに、受講生間で協調して学び合うような関係性を活かして、バレーボールの基礎技術の習得とボールコントロール感覚を元にした実践力の向上を目指す。また、このゲームにおいて最も重要なチームワークを積極的に作り上げることで、バレーボールゲームの楽しさを相互に享受していく。そして、基礎技術について受講生の技術習得の水準を評価するために、授業の最後に実技試験を実施し、確認する。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】			
第1回：ガイダンス バレーボールゲームの成り立ちと特性、ゲーム構造の理解			
第2回：ボールヒッティング フォームづくりと ヒッティング感覚の習得			
第3回：スパイク技術①動き作り			
第4回：スパイク技術②タイミングの合わせ			
第5回：オーバーハンドパスの基本動作とボールのはじき感覚			
第6回：トス技術の習得とオーバーハンドパスを用いた連係プレー			
第7回：アンダーハンドパスの基本操作とボールの送り出し感覚			
第8回：レシーブ技術とボールコントロール			
第9回：連係プレーの構築と導入ゲームの実施			
第10回：ゲームの実践① ルールの理解と実践			
第11回：ゲームの実践② セットプレー局面における基本的なフォーメーションの理解と運用			
第12回：ゲームの実践③ ゲームにおける連係プレーの仕方の理解と実践			
第13回：ゲームの実践④ 審判法			
テキスト 特になし			

参考書・参考資料等

- ・「バレーボールの戦い方 攻守に有効なプレーの選択肢を広げる」ベースボールマガジン社
- ・バレーボール入門 ベースボールマガジン社
- ・バレーボール（自主練シリーズ）ベースボールマガジン社

学生に対する評価

実技テスト（13回の授業時に実技試験を実施する）	80%
授業時のレポート	10%
授業に対する積極性	10%

授業科目名： トレーニング実習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：荒川 裕志 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>体力トレーニングの理論と実践を学ぶことは、競技スポーツのパフォーマンス向上や健康増進の基盤となる。この授業では、講義系科目で学んだ基礎知識に基づいた体力トレーニングの実習を行う。さらに、受講者自身がトレーニング計画を立案し、成果を評価・検証するプロセスを通じて、他者へトレーニングを指導するための実践的能力を養成する。</p> <p>なお、到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各種トレーニングを安全かつ効果的な方法で実施できる。 2) 各種トレーニングの実施方法を他者へ指導できる。 3) 個々の目的や特性に応じたトレーニング計画を立案できる。 4) トレーニング成果を評価・検証し、計画の改善に活用できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、講義系科目で学んだ基礎知識に基づいた各種トレーニングの実習を行う。レジスタンストレーニングでは、フリーウェイトを中心に、自重、マシンを活用した多様な種目を実施する。基本的な技術を習得するとともに、安全かつ効果的な実践方法を学ぶ。持久的トレーニングでは、ウォーキング、自転車エルゴメータ、ランニングを行う。他にも、ストレッチング、プライオメトリックトレーニング、アジリティトレーニングを行う。後半では、受講者自身でトレーニング計画を立案し、その成果を評価・検証しながら実施する時間を設ける。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：体力トレーニングの理論と実践を学ぶ意義</p> <p>第2回：ウォームアップとクールダウン</p> <p>第3回：ストレッチング</p> <p>第4回：レジスタンストレーニング：自重種目</p> <p>第5回：レジスタンストレーニング：下肢のフリーウェイト種目</p> <p>第6回：レジスタンストレーニング：上肢のフリーウェイト種目</p> <p>第7回：レジスタンストレーニング：体幹のフリーウェイト種目</p> <p>第8回：レジスタンストレーニング：マシン種目</p> <p>第9回：持久力トレーニング：低強度トレーニング</p> <p>第10回：持久力トレーニング：中・高強度トレーニング</p> <p>第11回：プライオメトリックトレーニング</p>			

第12回：アジリティトレーニング

第13回：まとめと理解度確認

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

日本スポーツ協会（編）．公認スポーツ指導者養成講習会テキスト（リファレンスブック）．
日本スポーツ協会．

平山邦明（編著）．アスレティックパフォーマンス向上のためのトレーニングとリカバリーの科学的基礎．文光堂，2021，ISBN 978-4-8306-5193-9．

学生に対する評価

以下の3点から総合的に評価する。

1) ミニレポート（50%）：事前学修内容、授業内容、トレーニング記録、反省・改善案を含む毎回のレポートを評価する。

2) 平常点（30%）：トレーニング実技の習熟度、授業内での発言内容、トレーニング理論の理解度を総合的に評価する。

3) 最終回の実技試験（20%）：最終回に実施する実技試験の点数を評価する。

授業科目名： スポーツ原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：田中（二橋）愛 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 「スポーツとは何か」ならびに「身体教育とは何か」をテーマとし、健康スポーツ科学分野の一つであるスポーツ哲学・体育原理や体育・スポーツ史に関する知識を身につけ、これまでのスポーツや体育のあり様や諸問題について説明できるようになる。			
授業の概要 授業では、体育原理や体育・スポーツ史に関する知識を身につけ、人々の健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献する人材となるために必要な体育・スポーツへの理解を深めていく。まず、「身体教育とは何か」を議論するための基礎知識として、「体育」および「スポーツ」に関する諸概念を整理する。次に、体育およびスポーツ指導が抱える諸問題について具体的に検討する。その際、グループワーク等を用いて理解を深める。さらに、身体教育の理念およびその必要性を理解するために、「身体」についての哲学および教育学的な知見に触れる。授業中は、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。授業毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、定期試験に備えること。第7回の中間テストで理解度を確認し、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回：体育とスポーツはどのような関係にあるか 第2回：近代のスポーツ（イギリスにおける近代スポーツの展開） 第3回：競争の過熱化とドーピング問題 第4回：ドーピングと身体 第5回：スポーツ指導の難しさ 第6回：運動部活動の歴史とこれから 第7回：中間テスト／教科体育の理念 第8回：教科体育は何を育てる科目なのか 第9回：教科体育で競争をどのように教えるか 第10回：格差問題と身体教育 第11回：身体教育と身体観 第12回：スポーツと身体の多様さ 第13回：体育のこれから			

定期試験
テキスト 特になし
参考書・参考資料等 『はじめて学ぶ体育・スポーツ哲学』（高橋徹編著、みらい、2018年） 『教養としての体育原理 新版』（友添秀則／岡出美則編、大修館書店、2016年） 『中学校学習指導要領』（文部科学省 平成29年告示） 『高等学校学習指導要領』（文部科学省 平成30年告示）
学生に対する評価 中間テスト（50%）及び定期試験の結果（50%）で評価する。

授業科目名： スポーツと法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：飯田 研吾 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業のテーマ】</p> <p>現実にスポーツ界で起きている様々な事例について、背後にある法律知識や法律問題を理解するとともに、法的な視点から解決策や予防策を考えることである。</p> <p>【到達目標】</p> <p>現実にスポーツ界で起きている法的な問題について、法的な視点から解決策や予防策を提示することができる。</p> <p>特徴的なスポーツ紛争（裁判例や仲裁事例等）を学ぶことで、将来スポーツに携わっていく者として必要な法的思考力・マネジメント力を身につける。</p>			
授業の概要			
現実にスポーツ界で起きている様々な事例を題材としながら、スポーツを取り巻く法とその体系の理解し、将来、スポーツに携わっていく者として必要は法的思考力・マネジメント力を養う。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】			
第1回：本授業のガイダンスとスポーツ法のイントロダクション			
第2回：スポーツ法の体系の理解とスポーツ基本法			
第3回：スポーツ紛争と解決機関			
第4回：オリンピック・パラリンピックにおける法的問題とその解決			
第5回：スポーツ事故と責任			
第6回：代表選考をめぐる問題			
第7回：スポーツ団体のガバナンスを考える			
第8回：アスリートの法的地位			
第9回：スポーツと契約			
第10回：スポーツと知的財産			
第11回：スポーツとインテグリティ（1）～アンチ・ドーピング、Match-Fixing～			
第12回：スポーツとインテグリティ（2）～暴力・ハラスメント問題を考える～			
第13回：まとめと授業内試験			
定期試験は実施しない。			

テキスト

テキストは指定せず、必要に応じてパワーポイントの資料等を配布する。

参考書・参考資料等

「標準テキスト：スポーツ法学（第3版）」日本スポーツ法学会監修（エイデル研究所）

「スポーツ法へのファーストステップ」石堂典秀・建石真公子編（法律文化社）

「スポーツ法への招待」道垣内正人他（ミネルヴァ書房）

「導入対話によるスポーツ法学」小笠原正他（不磨書房）

「詳解：スポーツ基本法」日本スポーツ法学会監修（成文堂出版）

その他、随時、参考になるものを紹介する。

学生に対する評価

以下のとおり予定している。

授業内試験：60%、中間レポート：20%、平常点（スポーツニュースの発表、リアクションペーパー）：20%

授業科目名： 心理学入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：鹿内 菜穂 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>心理学とは、心とは何か、心はどのような働き（心のメカニズムや心の仕組み）をしているのかについて、科学的に明らかにしようとする学問である。心を知り、理解することで、自分や他者について深く考え、よりよい社会をつくることに活かすためにある。心理学を学ぶ基礎段階として、心理学にはどのような分野があるかを学び、日常生活で感じる疑問や心に関する社会問題をとおして、それぞれの分野で重要とされる基本的な知識の修得を目指す。</p> <p>なお、到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の成り立ちに関する基本的な知識を有する。 2. 感覚・知覚・認知に関するメカニズムの基本を理解している。 3. 学習や教育に関する心理学の基礎的な用語と理論を説明することができる。 4. 発達に関する心理学の基礎的な用語と理論を説明することができる。 5. 心理療法の種類や特徴について説明することができる。 6. 心理学の研究法に関する基本的な知識を有する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、心理学の入門として、心理学の歴史、心理学の研究手法、そして心理学にはどのような分野があるかについて学ぶ科目である。それぞれの分野における心と行動に関する基本的なトピック、基礎的な知識や理論を解説する。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：授業の概要、授業における諸注意</p> <p>第2回：心理学とは何か 心理学の領域、心理学で扱われるテーマを学ぶ</p> <p>第3回：感覚・知覚・認知の心理学① 物体を見る時の法則や社会的状況が認知に与える影響について学ぶ</p> <p>第4回：感覚・知覚・認知の心理学② 記憶のメカニズムに関して学ぶ</p> <p>第5回：行動と学習の心理学 条件づけ、学習理論について学ぶ</p> <p>第6回：発達と心理① 愛着、エリクソンの発達段階、ピアジェの認知発達段階を学ぶ</p> <p>第7回：発達と心理②</p>			

<p>身体と認知の発達を学ぶ</p> <p>第8回：心理学的アセスメント 知能検査、発達検査、その他の心理検査の特徴について学ぶ</p> <p>第9回：健康と心理学 ストレスと心身の疾病、ストレスの心理学的モデルを学ぶ</p> <p>第10回：臨床の心理学 精神分析、来談者中心療法、認知行動療法、プレイセラピーの概要を学ぶ</p> <p>第11回：パーソナリティ（性格） パーソナリティの理論、性格の捉え方に関する考え方、性格を測定する方法について学ぶ</p> <p>第12回：心理学の研究法 心理学の対象および研究方法について学ぶ</p> <p>第13回：心理学の歴史 心理学の歴史を学び、心理学の未来を考える</p>
<p>テキスト</p> <p>サトウタツヤ・渡邊芳之「心理学・入門 心理学はこんなに面白い 改訂版」有斐閣アルマ、2019</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治「心理学 新版」有斐閣、2018 その他、関連資料はmanabaを通じて配付する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>各回のレポート課題（50%）および学期末試験（50%）で評価する。</p>

授業科目名： スポーツ心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：立谷 泰久 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツにおける「こころ」の重要性について学ぶ。「スポーツがこころに与える影響とは？」、「こころがパフォーマンスに及ぼす現象とは？」等、スポーツ心理学の理論や研究を学び、スポーツとこころがどのように関連しているのかを学習する。</p> <p>なお、到達目標は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ心理学の基礎的な知識を有している。 2. メンタルトレーニングの実践・応用について理解している。 3. 健康スポーツ心理学（QOL強化に果たす運動の役割、ウェルビーイングを含む）に関する基礎知識を有している。 4. スポーツ・運動と行動変容の関係について理解している。 5. 指導者（リーダー）として重要な指導効果やコミュニケーション等について説明することができる。 			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義では、「競技スポーツ」や「健康スポーツ」というようなスポーツ場面における「こころ」がどのように関係しているのか、その理論や研究を説明し、アスリートや一般の人々の行動変容にどのようにつながるのかを解説する。また近年では、QOL強化に果たす運動の役割やウェルビーイングを獲得するための健康スポーツ活動が注目され、これらに関することについても説明する。 ・スポーツ心理学は応用的な学問であり、人生に役に立つ・人生を豊かにすることにつながるということを理解し、学んでいく。 			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：ガイダンス・本講義の基礎 内容：「スポーツ心理学とは？－その意義と役割－」、スポーツ心理学（体育心理学を含む）の歴史等を学ぶ。</p> <p>第2回：メンタルトレーニングの基礎 内容：「メンタルトレーニングとは何か」等、メンタルトレーニングの基礎的なことを学び、競技場面で起こる心理的な問題・課題を理解する。</p> <p>第3回：スポーツと性格、動機づけについて 内容：性格の形成について理解し、スポーツと性格特性との関係について学ぶ。スポーツと性格特性の関係、そして動機づけについてを理解し、また心理検査等を用いて自分自身の心理的特性を知る。</p>			

第4回：競技心理の諸問題 内容：競技場面で起こる心理的問題や課題とパフォーマンスとの関係について理解する。競技場面で起こる心理的問題や課題とパフォーマンスとの関係、あがりやスランプ、プラトー等について学ぶ。

第5回：スポーツ技能の心理的基礎 内容：スポーツと認知、運動学習の基礎的な理論を学習する。基礎的な理論を学習した上で、スポーツの指導場面で応用できることを学ぶ。

第6回：スポーツチームの心理 内容：チームの構造と機能、集団、リーダーシップなどについて学ぶ。チームの構造と機能、集団、リーダーシップ、フォロワーシップ等がチームや集団に及ぼす影響を理解する。

第7回：対人魅力の心理・人間関係と指導効果 内容：魅力とは？対人魅力とは？それに関わる人間の心理とは？等を学ぶ。また、それに伴うスポーツにおける指導効果の関係や理想の指導者像等についても学習する。

第8回：健康スポーツ心理学 内容：健康スポーツ場面における心理学の応用、そして運動が心に及ぼす影響・効果について学ぶ。健康スポーツ心理学とは？運動が心理面に及ぼす影響の実験データ、実践例を見ながら学習する。

第9回：ストレスマネジメントの理論 内容：「ストレスやストレスマネジメントとは？」とその対処法や予防法を学ぶ。それらをどのように教育・指導現場で行うのかを学び、ストレスへの対処法と予防法を指導できるようになることを目指す。また「ライフスキル教育」についても学ぶ。

第10回：コミュニケーションについて 内容：コミュニケーションの重要性を学び、また「伝える技術」と「聴く技術」を学習し、それが日常の人間関係やスポーツ場面に及ぼす影響を学習する。

第11回：スポーツ臨床心理学 内容：スポーツカウンセリングやスポーツ場面で用いられる臨床心理学について理解する。スポーツに関わる人達が抱える心理的な問題や課題等を解決する手助けとしての有効なスポーツカウンセリングや臨床心理学の方法・手法を広く学んでいく。

第12回：スポーツ・運動における発達と行動変容について 内容：スポーツや運動を継続的に行うことが、人間の身体的・心理的発達にどのように影響し、どのような行動変容が起こるのかを理解する。アスリートや一般の人たちの例を見ながら、基本的なことを理解する。

第13回：講義内容の総まとめ 内容：これまでの総復習をし、スポーツ心理学の理解を深め、スポーツ心理学は応用の学問ということを再認識する。授業で行ったことを復習し、ディスカッション形式でいろいろな意見の交換を行い、そして「考える」ということを学ぶ。

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

- ・楠本恭久編著 「はじめて学ぶスポーツ心理学12講」、福村出版、2015
- ・石井源信・楠本恭久・阿江美恵子編 「現場で生きるスポーツ心理学」、杏林書院、2012
- ・中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二編著「よくわかるスポーツ心理学」、ミネルヴァ書房、2012

- ・日本スポーツ心理学会[編] 「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」、大修館書店、2016
- ・日本スポーツ心理学会[編] 「スポーツ心理学の挑戦—その広がりと深まり」、大修館書店、2023
- ・日本スポーツ心理学会[編] 「スポーツ心理学事典」、大修館書店、2008

学生に対する評価

- ・平常点：50%とする。受講に対する積極的な姿勢や態度、理解度が評価対象となる。
- ・定期試験：50%とする。
- ・上記のことを考慮し、総合的に評価する。

授業科目名： スポーツ社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：波多野 圭吾 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 健康スポーツ科学部のディプロマポリシーに従い、人々の健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献することができる人材を養成すべく、下記の到達目標を設定する。 1) 文化現象としてのスポーツと社会との関わりを理解し、それを様々な観点から批評・批判することができる。 2) 現代スポーツが抱える諸課題について理解し、それに対する他者の見解を踏まえ、自らの見解を相対化して説明することができる。			
授業の概要 本授業では、スポーツや身体運動の文化的・社会的な側面に着目し、スポーツと社会との関わりについて社会学的な視点から考察する。全授業終了時には、スポーツと社会との関係を体系的に理解し、特に現代スポーツにおける諸課題を主体的に解決するための思考力を身につけられるようにする。 【授業形式等】 ・授業資料はmanabaを通じて配付する。前日までに各自でアクセスし、印刷・ダウンロードなど必要な対応をとっておくこと。 ・授業終了後、manabaに設けられた小テストに回答すること。小テストの点数を、平常点として取り扱う。 ・manabaやresponを利用して、ディスカッションや質疑応答などを行うことがある。 ・全授業終了後、期末レポート課題を提出すること。（詳細は第13回授業で説明する） ・質問等は、授業中の発言以外に、manabaやメールからも受け付ける。 ・質問等のフィードバックは、原則として講義内で行う。急を要するもの、個別に対応が必要な件については、manabaやメールを用いる。 ・本科目の予習・復習にかかる時間の目安は、授業1回あたり4.5時間程度である。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回：ガイダンス・文化とスポーツ／授業の進め方、文化およびスポーツの概念について 第2回：スポーツ文化の変容／スポーツの発祥と現代に至るまでの変容について 第3回：スポーツと産業／スポーツと産業の関わりについて 第4回：スポーツとメディアの発展／スポーツとメディアの関わりについて			

第5回：オリンピックとスポーツ／オリンピックの発祥・理念、現代的な意義と課題について
 第6回：パラリンピックとスポーツ／パラリンピックの発祥・理念、障がい者スポーツの実態と課題について
 第7回：スポーツと差別／スポーツにおける人種差別や政治的行為について
 第8回：スポーツとジェンダー①／ジェンダーに関する諸概念の整理と理解、性暴力について
 第9回：スポーツとジェンダー②／スポーツにおける男女二元制の議論と性差別について
 第10回：スポーツと教育／スポーツと教育の関わりについて
 第11回：地域スポーツの変遷／地域社会におけるスポーツの役割や意義について
 第12回：スポーツと社会的責任／スポーツ・インテグリティの理解、暴力・ハラスメント等の根絶について
 第13回：授業のまとめ・期末レポート課題について
 定期試験は実施しない。第13回の授業終了後に、期末レポート課題を提出すること。

テキスト

なし。適宜、資料を配付する。

参考書・参考資料等

井上俊・菊幸一編「よくわかるスポーツ文化論」ミネルヴァ書房（2011）

山田明編「未来を拓くスポーツ社会学」みらい（2020）

佐藤洋編「スポーツ健康科学」みらい（2022）

学生に対する評価

【評価の基準】

- 1) スポーツ文化の変遷や今日的な構造について説明することができる。
- 2) スポーツの今日的な役割や課題について、批評・批判することができる。
- 3) 現代スポーツが抱える課題について具体例を挙げ、それを解決するための合理的な方法を述べることができる

【具体的評価方法】

- ・評価の内訳は、毎回の授業に実施する小テスト：40%、期末レポート：50%、講義態度（授業への参画度；減点法）：10%、とする。
- ・授業への出席が全日数の3分の2に満たない、または期末レポート課題未提出の学生は評価の対象としない。
- ・期末レポート課題では、授業内で提示する諸課題に対して主体的に考えるとともに、自らの見解を相対化して説明できるようにする。
- ・小テストは、毎回の授業終了後にmanabaへ設けられたものに解答する。
- ・講義態度は減点法とし、授業への参画度を評価する。グループディスカッション等を実施した場合は、それらの取り組みも評価の対象とする。

授業科目名： スポーツ史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：都筑 真 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 健康スポーツ科学分野の一つである体育・スポーツ史に関する知識を身につけ、社会の変化に伴う体育・スポーツのこれまでの変化について理解し、説明できるようになる。			
授業の概要 授業では、時代毎ではなく、現代の体育・スポーツを理解する上で重要と思われるテーマ毎に、体育・スポーツ史に関する知識を身につけ、人々の健康実現とウェルビーイングな社会の発展に貢献する人材となるために必要な体育・スポーツへの理解を深めていく。授業中は、パワーポイントで示した内容や、口頭で述べる補足事項を配布資料に書き込んでいくこと。授業毎に配布される資料はファイリングするなどして整理し、定期試験に備えること。授業では毎回、授業内容に関する小レポートを課し、理解度の確認を行う。小レポートの結果は、次回の授業時に解説によるフィードバックを行う。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回：スポーツ史を学ぶ意義 第2回：スポーツのルーツへのまなざし 第3回：各時代の社会におけるスポーツ①（古代と中世） 第4回：各時代の社会におけるスポーツ②（近代と現代） 第5回：スポーツ種目の誕生と変容①（水泳、サッカー、バスケットボール、バレーボール） 第6回：スポーツ種目の誕生と変容②（ニュースポーツ） 第7回：欧米スポーツの日本への移入 第8回：近代の戦争と体育・スポーツ①（明治期と大正期） 第9回：近代の戦争と体育・スポーツ②（昭和戦前期） 第10回：オリンピックと世界平和①（オリンピックの理念） 第11回：オリンピックと世界平和②（オリンピックの現実） 第12回：スポーツとメディア 第13回：スポーツと環境問題 定期試験			
テキスト 特になし			

参考書・参考資料等

『体育・スポーツ史概論』（木村吉次編著、市村出版、2015年）と『スポーツの歴史と文化 新版』（新井博編著、道和書院、2019年）を参考書として利用すること。

学生に対する評価

授業毎に課す小レポート(10%)及び定期試験の結果(90%)で評価する。

授業科目名： スポーツバイオメカニクス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：荒川 裕志 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>バイオメカニクスとは、物理学の一分野である力学を基盤とし、スポーツをはじめとする身体運動を科学的に理解する学問領域である。本授業科目では、1年次（2セメスター）に開講された「バイオメカニクス入門」で学んだ基礎数学や機能解剖学の知識を基に、走、跳、投、打、泳といった多様なスポーツ動作の力学的原理を理解することを目指す。また、それらの原理をスポーツ現場やトレーニング、傷害予防などに応用するための基礎的な考え方も習得する。なお、到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 走・跳・投・蹴・打・泳といった多様なスポーツ動作の力学的特徴を理解し、それらをスポーツパフォーマンスや傷害予防の具体例と結びつけて説明できる。 2) 筋収縮の力学的特性を理解し、その知識をスポーツパフォーマンスや傷害予防の具体例と結びつけて説明できる。 3) スポーツバイオメカニクスで使用される計測技術や分析方法を把握し、それらの目的や概要を正確に説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、「バイオメカニクス入門」で学んだ基礎数学や機能解剖学を基に、様々な身体運動の原理を力学的観点から学ぶ。並進運動、回転運動、仕事・エネルギー、運動量・力積といった力学的原理に基づき、走・跳・投・蹴・打・泳といった多様なスポーツ動作の特徴を解説していく。また、筋収縮の力学的特性や、スポーツバイオメカニクスで用いられる計測技術や分析方法についても解説する。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：スポーツバイオメカニクスを学ぶ意義とは</p> <p>第2回：並進運動のバイオメカニクス：位置・速度・加速度、放物運動</p> <p>第3回：並進運動のバイオメカニクス：運動の法則と力</p> <p>第4回：回転運動のバイオメカニクス：角度・角速度・角加速度</p> <p>第5回：回転運動のバイオメカニクス：力のモーメント、慣性モーメント</p> <p>第6回：身体運動と仕事・エネルギー</p> <p>第7回：身体運動と力積・運動量</p>			

第8回：歩動作、立位維持のバイオメカニクス

第9回：走動作・跳動作のバイオメカニクス

第10回：投動作・蹴動作・打動作のバイオメカニクス

第11回：流体のバイオメカニクス

第12回：筋収縮のバイオメカニクス：筋収縮様式、骨格筋の力発揮特性

第13回：まとめ：理解度確認と解説

テキスト

なし

参考書・参考資料等

宮西智久（編著）、藤井範久、岡田英孝「スポーツバイオメカニクス（シリーズ：4）（はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ4）」、化学同人、2016、ISBN 978-4-7598-1706-5

宮西智久「スポーツバイオメカニクス 完全準拠 ワークブック」、化学同人、2020、ISBN 978-4-7598-2034-8

Thompson CW, Floyd RT（著）、中村千秋、竹内真希（翻訳）「身体運動の機能解剖」医道の日本社、2002、ISBN 978-4-7529-3063-1

学生に対する評価

以下の3点から総合的に評価する。

- 1) 小試験（60%）：第2回以降の授業冒頭で実施する前回の内容を範囲とした小試験の合計点を評価。
- 2) 最終回の筆記試験（30%）：最終回に実施する第1回～第12回の全授業内容を範囲とする筆記試験の点数を評価。
- 3) 平常点（10%）：授業内での発言による理解度の評価。

授業科目名： バイオメカニクス入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：荒川 裕志 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>バイオメカニクスとは、物理学の一分野である力学を基盤とし、スポーツをはじめとする身体運動を科学的に理解する学問領域である。本授業科目では、2年次（3セメスター）に開講される「スポーツバイオメカニクス」を理解するために必要となる数学および機能解剖学の知識を身につけるとともに、スポーツバイオメカニクスの導入的な内容を学ぶことを目指す。</p> <p>なお、到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎数学を理解し、それを初学者にも分かりやすく説明できる。 2) 基礎数学がバイオメカニクスでどのように応用されるかを具体例を用いて説明できる。 3) 骨格筋、骨、関節、腱など運動器の基本構造とその機能について説明できる。 4) 身体各部位の運動器の特徴を説明できる。 5) 力や重心など古典力学の基本概念を、スポーツにおける具体的な応用例を用いて説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業の前半では、バイオメカニクスを理解するために必要となる三角関数、ベクトル、微分積分といった数学の基礎を学ぶ。中盤では、骨格筋、骨、関節、腱などの運動器を中心とした機能解剖学を学び、身体各部位の特徴を把握する。後半では、これらの基礎知識を基に、力や重心といった古典力学の基本概念を解説し、スポーツにおける具体的な応用例を通じてバイオメカニクスの基礎的な理論を学ぶ。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：バイオメカニクスで用いられる変数と単位</p> <p>第2回：数学①：関数とグラフ</p> <p>第3回：数学②：三角関数・ベクトル</p> <p>第4回：数学③：微分積分</p> <p>第5回：数学④：行列</p> <p>第6回：機能解剖学①：運動器の基本構造</p> <p>第7回：機能解剖学②：上肢</p> <p>第8回：機能解剖学③：下肢</p> <p>第9回：機能解剖学④：脊柱・体幹</p>			

第10回：基礎バイオメカニクス①：身体運動と重心・力

第11回：基礎バイオメカニクス②：仕事・エネルギー・運動量・力積

第12回：基礎バイオメカニクス③：筋収縮の力学的特性

第13回：まとめ：理解度確認と解説

テキスト

なし

参考書・参考資料等

宮西智久（編著）、藤井範久、岡田英孝「スポーツバイオメカニクス（シリーズ：4）（はじめて学ぶ健康・スポーツ科学シリーズ4）」化学同人、2016、ISBN 978-4-7598-1706-5

宮西智久「スポーツバイオメカニクス 完全準拠 ワークブック」化学同人、2020、ISBN 978-4-7598-2034-8

Thompson CW、Floyd RT（著）、中村千秋、竹内真希（翻訳）「身体運動の機能解剖」医道の日本社、2002、ISBN 978-4-7529-3063-1

学生に対する評価

以下の3点から総合的に評価する。

1) 小試験（60%）：第2回以降の授業冒頭で実施する前回の内容を範囲とした小試験の合計点を評価。

2) 最終回の筆記試験（30%）：最終回に実施する第1回～第12回の全授業内容を範囲とする筆記試験の点数を評価。

3) 平常点（10%）：授業内での発言による理解度の評価。

授業科目名： スポーツビジネス入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：石黒 えみ 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業は、スポーツビジネスの現状を理解するための入門科目である。授業は、ゲストスピーカーの講演と学生のプレゼンテーションを中心に構成されており、スポーツ業界における多様な分野を学び、実際のビジネスの現場を知ることがを目的としている。ゲストスピーカーの講演を通じて、各業界のビジネス戦略やマーケティング手法、業界の動向や課題について学び、スポーツビジネスにおける実践的な知識を深めていく。また、学生プレゼンテーションでは、当該産業領域の統計データ等を用いてトレンドを発表し、データ分析を通じて業界の動向を把握するとともに、プレゼンテーションスキルを磨いていく。なお到達目標は以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツビジネスの最新動向に関する理解を深める。 ・スポーツを仕事にするために必要な知識・スキルにはどのようなものがあるかを理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、スポーツビジネスの各領域の専門家からの講義、学生のプレゼンテーションを通して、刻々と変化するスポーツビジネスの最前線について触れるとともに、スポーツビジネス業界の特性、スポーツビジネス業界でキャリアを築いていくために必要な知識・スキルを理解することを目的としている。</p> <p>招聘する実務家はプロスポーツ（クラブ・リーグ）、スポーツメーカー、スポーツスクール、スポーツメディア、スポーツ振興団体等を予定しており、各領域の組織・業界概要、実務家の仕事の実際、当該領域で求められる人材像等についてレクチャーいただく。学生プレゼンでは、当該領域の統計データ・事例を収集し、業界動向を把握しプレゼンテーションを行うことで、業界理解を深めるとともに自身の卒業後のキャリアのイメージを深めることを目指す。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：スポーツビジネスで「働くこと」を考える：自身の興味・関心に基づきスポーツビジネスにはどんな仕事があるのかを調査しディスカッションを行う。</p> <p>第2回：スポーツビジネスの全体像を理解する：スポーツ産業領域分類法を参考に、スポーツビジネスの類型・分類やその実態を概観する。</p> <p>第3回：ゲスト講師による講義①：プロスポーツ プロスポーツリーグ・クラブの業界動向、企業の戦略、求める人材像について学ぶ。</p> <p>第4回：学生プレゼンテーション①：プロスポーツに関するプレゼンテーション</p>			

<p>第5回： ゲスト講師による講義②：スポーツメーカー スポーツメーカーの業界動向、企業の戦略、求める人材像について学ぶ。</p> <p>第6回： 学生プレゼンテーション②：スポーツメーカーに関するプレゼンテーション</p> <p>第7回： ゲスト講師による講義③：スポーツスクール スポーツスクールの業界動向、企業の戦略、求める人材像について学ぶ。</p> <p>第8回： 学生プレゼンテーション③：スポーツスクールに関するプレゼンテーション</p> <p>第9回： ゲスト講師による講義④：スポーツメディア スポーツメディアの業界動向、企業の戦略、求める人材像について学ぶ。</p> <p>第10回： 学生プレゼンテーション④：スポーツメディアに関するプレゼンテーション</p> <p>第11回： ゲスト講師による講義⑤：スポーツ振興団体 スポーツ振興団体の業界動向、企業の戦略、求める人材像について学ぶ。</p> <p>第12回： 学生プレゼンテーション⑤：スポーツ振興団体に関するプレゼンテーション</p> <p>第13回： まとめと振り返り：スポーツビジネス業界で必要とされる人材像、そのために自分が身につけるべき知識・スキルを考え、自分自身のキャリアビジョンと行動計画を作成する。</p>
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて適宜指示を行う。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>スポーツ産業論 第7版（原田宗彦 編著、発行杏林書院、2021年発行）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>各回の課題：40%</p> <p>プレゼンテーション：40%</p> <p>授業への参加状況（参加態度・発言回数）：20%</p>

授業科目名： スポーツ生理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：長浜 尚史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生理学（運動生理学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>人々の健康を考える上で、運動は欠かすことができない必要な要素である。「スポーツ生理学」は、ヒトが身体運動を行なった際、あるいは不活動になった際に生体内でどのような変化が生じているのか、その現象と仕組みを概観する学問である。スポーツ生理学の分野で蓄積されてきた研究成果は、スポーツの競技力を高めるだけでなく、人々の健康実現にも大きく貢献するようになってきた。本授業では、「生理学入門」で得た知識をもとにして、身体を構成する各器官が運動刺激や環境の変化によってどのような影響を受けるのかを学ぶ。そして、スポーツを安全かつ効果的に実践したり、他者に対して適切な運動支援が提供できるようになることを目指す。なお、到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツ生理学の基礎的な用語が説明できる。 2. 身体活動、あるいは不活動に伴う身体諸機能の変化について説明できる。 3. 環境の変化が運動パフォーマンスに及ぼす影響を説明できる。 4. スポーツ生理学の知識は、スポーツ活動を適切に実践したり、日常生活を健康的に過ごすために必要であることが説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>一過性の運動ストレスによって生じる生体内の生理的応答や諸機能の変化、また、継続的な運動トレーニングによる適応（神経系の改善、筋力や全身持久力の向上など）、さらには、運動不足といった不活動に伴う生体機能の低下（廃用性萎縮など）について学ぶ。</p> <p>具体的な学修内容としては、エネルギー代謝、骨格筋系、神経系、呼吸器系、循環器系、内分泌系、免疫系、体温調節などである。そして、これらを運動と有機的に結びつけることによって、この学問が各種スポーツの競技力向上に活用できたり、健康の維持増進にも応用できることを概説していく。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：ガイダンス（授業の概要）</p> <p>第2回：収縮とエネルギー供給系</p> <p>第3回：筋線維の種類とその特徴、筋の収縮様式</p> <p>第4回：神経系の役割</p> <p>第5回：脳・神経系と運動</p> <p>第6回：運動と循環（1）仕組みと調節</p>			

第7回：運動と循環（2）トレーニングとの関係

第8回：運動と呼吸

第9回：運動とホルモン

第10回：運動と免疫能

第11回：運動と体温調節

第12回：環境と運動

第13回：まとめ（理解度確認と解説）

テキスト

入門運動生理学 第4版（勝田茂 編 和田正信、松永智 著）、杏林書院

健康体力づくり事業財団「健康運動指導士」の資格取得を希望する受講生は、「健康運動指導士養成講習会用テキスト」も用意すること。

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

以下の3点から、総合的に評価する。

1. 平常点（発言やコメント）、20%
2. 課題レポート、30%
3. 学期末試験、50%

授業科目名： 生理学入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：長浜 尚史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生理学（運動生理学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>人々の健康実現やウェルビーイングな社会に貢献するために、私たちの身体に備わっている機能を知っておくことは重要である。生理学は、私たちの身体がどのように機能しているのか、そのメカニズムを科学的に分析し理解する学問である。「生理学入門」では、ヒトの生理機能を理解するために必要な基本的概念を扱う。そして、私たちの身体がさまざまなシステム（系）によってできているという生理学的概念に基づき、そのシステムを構成する器官や組織に注目しながら、それぞれが保持する特有の役割と現象を学ぶ。なお、到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生理学で使う基礎的な用語を理解し、説明できる。 2. 身体がどのような機能を保持しているか説明できる。 3. 外部環境の変化に適応して身体の内部環境を維持するためのメカニズムを理解し、説明できる。 4. 生理学の知識は、人々の健康実現に役立てることができることを説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、細胞から器官、器官系、そして個体にいたるまで、生命活動を支えるメカニズムを基礎から学修する。そして、細胞の構造や働き、骨格筋の収縮とエネルギー代謝、神経系による情報の伝達、内分泌系によるホルモンの調節、循環器系による血液循環、呼吸器系でのガス交換、消化器系での栄養吸収など、生命を維持する上で重要な様々な器官系の働きを、幅広く学修する。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：ガイダンス（授業の概要）</p> <p>第2回：恒常性</p> <p>第3回：免疫系</p> <p>第4回：神経系</p> <p>第5回：内分泌系</p> <p>第6回：血液</p> <p>第7回：循環器系</p> <p>第8回：呼吸器系</p> <p>第9回：運動器系</p>			

第10回：消化器系と代謝

第11回：泌尿器系

第12回：感覚器系

第13回：生殖器系

テキスト

指定の教科書はない。補助教材を利用する。

参考書・参考資料等

好きになる生理学第2版（田中越郎、講談社）

イラストでまなぶ生理学第4版（田中越郎、医学書院）

学生に対する評価

以下3点から、総合的に評価する。

1. 平常点（授業中の小テスト、コメントなど）：20%
2. 課題レポート：30%
3. 学期末試験：50%

授業科目名： トレーニング理論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：荒川 裕志 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生理学（運動生理学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>体力トレーニングの理論と実践を学ぶことは、競技スポーツのパフォーマンス向上や健康増進の基盤となる。本授業では、体力トレーニングの原理・原則や基本的な知識を習得し、科学的根拠に基づいたトレーニング方法論を学ぶことを目的とする。競技者のスポーツパフォーマンス向上を目指すトレーニング理論や、健康・体力増進を目的としたアプローチ、さらに体力の測定・評価方法などについて、具体例を交えて解説する。</p> <p>なお、到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) トレーニングの原理・原則や基本的な知識を説明できる。 2) 筋力、筋肥大、筋パワー、持久力、柔軟性、アジリティといった各体力要素のトレーニング理論を理解し、目的に応じて実践方法を選択できる。 3) スポーツパフォーマンス向上や健康・体力増進といった目的に応じたトレーニング方法の違いを説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、まずは体力トレーニングの基本となる原理・原則を学ぶ。そのうえで、生理学やスポーツバイオメカニクスなど基礎科目で得た知識を活用し、筋力、筋肥大、筋パワー、持久力、柔軟性、アジリティといった各体力要素を向上させるための理論と実践方法を習得する。競技者のスポーツパフォーマンス向上を目指したトレーニング理論だけでなく、健康・体力増進を目的としたアプローチや、発育発達、加齢、性差に基づくトレーニング理論の違いについても解説する。さらに、体力の測定・評価方法についても学び、トレーニング成果を評価・検証する際の基本的な考え方を習得する。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：トレーニングの原理原則、トレーニング強度</p> <p>第2回：運動器のしくみ・働きとトレーニング</p> <p>第3回：呼吸循環器系のしくみ・働きとトレーニング</p> <p>第4回：神経系のしくみ・働きとトレーニング、スキルトレーニング</p> <p>第5回：筋力トレーニング、筋肥大トレーニング</p> <p>第6回：筋パワートレーニング、プライオメトリックトレーニング</p> <p>第7回：筋持久力トレーニング、全身持久力トレーニング</p> <p>第8回：柔軟性トレーニング、アジリティトレーニング</p>			

第9回：発育発達、加齢とトレーニング

第10回：性差とトレーニング

第11回：体力の測定・評価①：筋力、筋パワー、筋量、身体組成

第12回：体力の測定・評価②：持久力、柔軟性、各種運動能力

第13回：まとめ：理解度確認と解説

テキスト

なし

参考書・参考資料等

日本スポーツ協会（編）．公認スポーツ指導者養成講習会テキスト（リファレンスブック）．
日本スポーツ協会．

平山邦明（編著）．アスレティックパフォーマンス向上のためのトレーニングとリカバリーの科学的基礎．文光堂，2021，ISBN 978-4-8306-5193-9．

学生に対する評価

以下の3点から総合的に評価する。

- 1) 小試験（60%）：第2回以降の授業冒頭で実施する前回の内容を範囲とした小試験の合計点を評価。
- 2) 最終回の筆記試験（30%）：最終回に実施する第1回～第12回の全授業内容を範囲とする筆記試験の点数を評価。
- 3) 平常点（10%）：授業内での発言による理解度の評価。

授業科目名： 公衆衛生学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土田（中村）ももこ
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 衛生学・公衆衛生学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この科目は、生涯を通じた健康づくりと疾病予防について、包括的・多角的に理解し、社会のなかでどのように健康を守っていくのかを学ぶことを目的とする。</p> <p>なお、到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生の目的と歴史について説明することができる。 2) 保健統計資料を読み取り、わが国の健康問題について考え、述べることができる。 3) 主な疾病と運動・栄養・睡眠の生活習慣について説明することができる。 4) 各ライフステージにおける健康問題、保健政策・サービスについて説明することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>生涯を通じた健康生活とウェルビーイングの実現のためには、公衆衛生に関する基本的な理解が不可欠である。本授業では健康の概念と定義、疫学・保健統計、ライフスタイルと生活習慣病、感染症、各ライフステージにおける健康問題などを取り上げて、公衆衛生に関する基礎知識の習得を目指す。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：公衆衛生とは</p> <p>第2回：健康の概念・定義</p> <p>第3回：疫学</p> <p>第4回：保健統計</p> <p>第5回：ライフスタイルと生活習慣病（1）運動・栄養・睡眠</p> <p>第6回：ライフスタイルと生活習慣病（2）喫煙・飲酒</p> <p>第7回：感染症とその対策</p> <p>第8回：地域保健（1）母子保健・女性の健康づくり</p> <p>第9回：地域保健（2）老人保健・介護保険サービス</p> <p>第10回：学校保健・青少年期の健康教育</p> <p>第11回：産業保健（1）労働と健康</p> <p>第12回：産業保健（2）職場における健康づくり</p> <p>第13回：精神保健・ストレスとソーシャルサポート</p> <p>定期試験は実施しない</p>			

テキスト

・山崎喜比古 監修・朝倉隆司 編、『新・生き方としての健康科学〔第二版〕』、有信堂高文社、2021、978-4-8420-6596-0

参考書・参考資料等

・厚生労働統計協会(編)、『国民衛生の動向2024/2025』、厚生労働統計協会、2024、978-4-87511-920-3
・小山洋/辻一郎、『シンプル衛生公衆衛生学2024』、2024、978-4-524-21022-0

学生に対する評価

以下の2点から総合的に評価する。

- 1) 授業毎の振り返りシート (40%)
- 2) レポート課題 (60%)

授業科目名： 学校保健概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 土田（中村）ももこ 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>この科目は、生涯を通じて心身の健康を保持・増進するための資質や能力をどのように育成するかについて理解を深めることを目的とする。</p> <p>なお、到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学校保健の意義、目的、領域（保健管理・保健教育、組織活動）について説明することができる。 2) 子どもの発育発達、健康問題およびその背景を説明することができる。 3) 子どもの健康保持・増進のための具体的な支援策について考え、述べることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>心の健康、性に関する問題、喫煙・飲酒、薬物乱用、食生活の問題、感染症など、現代の児童生徒を取り巻く学校保健上の課題は多様化している。本授業では、学校保健における保健教育、保健管理、組織活動について学び、児童生徒の健康保持・増進のために果たすべき役割を学習する。具体的には、学校保健の意義と目的、組織活動、学校安全・危機管理、学校の環境衛生管理、保健教育、子どもの発育・発達と健康課題、健康観察・健康診断、食物アレルギー、感染症、メンタルヘルス、青少年の危険行動、応急処置、保健室の役割といった学校保健に関する基礎的内容を包括的に扱う。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：学校保健の意義と目的</p> <p>第2回：学校保健の関係職員、組織活動</p> <p>第3回：学校安全・危機管理</p> <p>第4回：学校の環境衛生管理</p> <p>第5回：保健教育</p> <p>第6回：子どもの発育・発達と健康課題</p> <p>第7回：健康観察、健康診断</p> <p>第8回：食物アレルギー、学校給食</p> <p>第9回：感染症とその対策</p> <p>第10回：子どものメンタルヘルスとその対応</p>			

第11回：青少年の危険行動

第12回：応急処置

第13回：保健室の役割

定期試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

・渡邊正樹、『学校保健概論 第4版』、光生館、2024、978-4-254-61672-9

・教員養成系大学保健協議会、『学校保健ハンドブック第8次改訂』、ぎょうせい、2024、978-4-324-11344-8

学生に対する評価

以下の2点から総合的に評価する。

- 1) 平常点（40%）：ディスカッションへの参加態度、授業毎のコメントシート
- 2) 最終試験（60%）

授業科目名： 救急法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松本 晃裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツや運動は生活習慣病を予防し健康を増進させるが、時には外傷や疾病を引き起こす可能性がある。スポーツ中あるいは日常生活においてショック状態、意識障害のある者や受傷者に遭遇することがありえるが、その際は直ちに適切な処置を行う必要がある。本講義では主にスポーツ・運動中に生じる心停止・意識障害・熱中症・外傷などを取り上げ、それがどのような疾患・原因で生じるかについて説明する。またスポーツの継続の可否の判断や、病院への受診の必要性なども説明する。</p> <p>なお、到達目標は以下の通りである。</p> <p>（１）スポーツ・運動中に生じる心停止・意識障害・熱中症・外傷などについて、どのような疾患・原因で生じるかについて現場で判断できる知識を習得する。</p> <p>（２）実習を通じて、心肺蘇生法・AEDの使用・止血などの処置や緊急搬送を適切に行うことができるようにすること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では主にスポーツ・運動中に生じる疾患として、まず心停止・意識障害を引き起こす急性心筋梗塞・脳卒中・気管支喘息などの内科的障害を説明し、そのような者に遭遇した場合に行うべき心肺蘇生法・AED使用について実習を行う。さらにスポーツ中などの頭部・頸部・四肢などの外傷を説明し、それらに対する止血、傷の洗浄、テーピング、RICE処置などを実習で行う。さらに熱中症の予防と対処法なども講義する。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：内科的障害（１） 突然死、急性心筋梗塞、不整脈など</p> <p>第2回：内科的障害（２） 意識障害、脳卒中、頭痛など</p> <p>第3回：内科的障害（３） 運動誘発性喘息、自然気胸、過換気症候群など</p> <p>第4回：内科的障害（４） 食物アレルギー、運動誘発性アナフィラキシー、食中毒、薬物中毒など</p> <p>第5回：救急蘇生法（１） 心肺蘇生法</p> <p>第6回：救急蘇生法（２） AED、回復体位など</p> <p>第7回：熱中症、低体温症など</p> <p>第8回：高山病、潜函病、溺水など</p> <p>第9回：外科的応急措置（１） 頭部、頸部、脳震盪など</p>			

第10回：外科的応急措置（2） 四肢外傷、RICE処置、腎出血など
第11回：外科的応急措置（3） 止血法、鼻出血、鼻骨骨折、耳出血、歯の損傷、顎骨骨折など
第12回：火傷、日焼け、凍傷、電撃症など
第13回：まとめ

テキスト

- 1) 「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」、改訂第2版、南江堂。
- 2) 健康運動指導士の資格取得を目指すものは「健康運動指導士養成講習会用テキスト」。

参考書・参考資料等

指定図書

- 1) 「救急蘇生法の指針 2020（市民用、解説編）」、ヘルス出版。
- 2) 「救急蘇生法の指針 2020（市民用）」、日本救急医療財団、無料公開PDF(https://qqzaidan.jp/wp-content/uploads/doc-shishin/shishin2020_shimin_hp.pdf)

学生に対する評価

提出するレポート（70点）と平常点（授業への取り組み；発言や受講態度、心肺蘇生法などの実習での積極性。30点）を合計して、基準点である60点以上であれば、単位取得とする

授業科目名： スポーツ医学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松本 晃裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>スポーツ・運動は健康を増進させるが、時には外傷や疾病を引き起こす可能性がある。本講義ではスポーツ中に生じる内科、整形外科などの疾患を取り上げる。具体的には急性心筋梗塞、不整脈などの突然死を引き起こす疾患、運動誘発性喘息、運動性貧血、熱中症などの内科疾患と、外傷、整形外科疾患を取り上げるが、こうした疾病や外傷を予防する方法も取り上げる。なお、到達目標は以下の通りである。</p> <p>（１）スポーツ医学の知識を習得することにより、競技能力の向上や、スポーツによる疾患や外傷を予防できるようになる。</p> <p>（２）スポーツ指導者に必要なスポーツ医学の知識やノウハウを習得し、スポーツ指導においてスポーツ医学的知識を活用できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義ではまずスポーツや運動が健康を増進することを説明するが、病気や病気になる素因を有している者では、運動によりその病気がかえって引き起こされる可能性があるため、そのために重要なメディカルチェックについて、解説する。スポーツ中に生じる急性心筋梗塞、不整脈などの突然死を引き起こす疾患、運動誘発性喘息、運動性貧血、熱中症などの内科疾患と、スポーツによる外傷や整形外科疾患を取り上げ、こうした疾患や外傷を予防する方法も説明する。さらに女性アスリートに特有な疾患、スポーツによる精神障害、オーバートレーニング、アンチドーピングなども説明する。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：スポーツと健康</p> <p>第2回：アスリートの健康管理 内科的、整形外科的メディカルチェック</p> <p>第3回：アスリートの内科的障害と予防、対策（1） 突然死、急性心筋梗塞、不整脈</p> <p>第4回：アスリートの内科的障害と予防、対策（2） 熱中症、急性アナフィラキシーショック、運動誘発性喘息、過剰換気症候群</p> <p>第5回：アスリートの内科的障害と予防、対策（2） スポーツ選手の貧血、オーバートレーニング症候群</p> <p>第6回：外科的損傷・障害の予防（頭部、頸部、上肢、体幹）</p> <p>第7回：外科的損傷・障害の予防（腰部、下肢）</p>			

第8回：コンディショニングの手法

第9回：女性アスリートの障害と対策、妊婦とスポーツ

第10回：スポーツによる精神障害と対策

第11回：眼科・皮膚科疾患

第12回：アンチドーピング

第13回：成長期とスポーツ、加齢とスポーツ

テキスト

- 1) 「スポーツ指導者のためのスポーツ医学」、改訂第2版、南江堂。
- 2) 健康運動指導士の資格取得を目指すものは「健康運動指導士養成講習会用テキスト」。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

提出するレポート（70点）と平常点（授業への取り組み；発言や受講態度。30点）を合計して、基準点である60点以上であれば、単位取得とする

授業科目名： 保健体育科教育法Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：徐 広孝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>保健体育教師として授業を行うためには、学習指導要領に基づき保健体育科の目標、内容、カリキュラムマネジメントを理解する必要がある、その上で指導計画を立て、授業を行い、学習評価をしなければならない。優れた授業（モデル授業）を観察し、その特性や構造を理解することは、授業の設計と実践において重要である。本科目は保健体育の授業を行う上で必要な基礎的な知識、技能を習得するとともに、保健体育教師としての教育観・教師観についても養うことを目的とする。到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 保健体育科教育の歴史や現状を把握し、保健体育科教育の意義と今日的課題を理解することができる。 2) 学習指導要領に基づく保健体育の授業の目標、内容、指導法、学習評価などを理解し、保健体育の授業を行う上での基礎知識・技能を習得する。 3) モデル授業を観察し、その特性や構造を分析することができる。 4) 保健体育教師を目指すにあたり、自己の教育観・教師観を形成することができる。 <p>なお、当科目は高校免許では選択科目の扱いとなるが、教科教育に関する幅広い知識・技能の修得という観点から、高校免許取得希望者も保健体育科教育法Ⅲ・Ⅳと合わせて履修することが望ましい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は保健体育科教育の歴史を概観し、現代社会における保健体育科教育の意義、現状と課題を理解する。また、学習指導要領を読み解き、保健体育科の目標、内容、カリキュラムマネジメント、指導計画、学習評価など、保健体育の授業を行う上での基礎知識を理解する。モデル授業の観察と分析および基礎的な指導法の実践を経て、最終的に専門職としての教育観・教師観についても考える。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業概要及び受講上の注意事項の説明、教育観・教師観を考える）</p> <p>第2回：保健体育科教育の歴史と現状</p> <p>第3回：体育のモデル授業の観察と分析</p> <p>第4回：保健のモデル授業の観察と分析</p> <p>第5回：学習指導要領を読み解く①：保健体育科の目標、内容</p>			

第6回：学習指導要領を読み解く②：保健体育科のカリキュラムマネジメント、指導計画
 第7回：学習指導要領を読み解く③：保健体育科の学習形態、学習環境
 第8回：学習指導要領を読み解く④：保健体育科のICT（情報通信技術）を活用した授業
 第9回：学習指導要領を読み解く⑤：保健体育科の学習評価
 第10回：保健体育科における良い授業と教師について考える
 第11回：体育の指導法の基礎と実践
 第12回：保健の指導法の基礎と実践
 第13回：授業のまとめ（学修内容の振り返りと理解度確認、教育観・教師観を見つめ直す）
 定期試験は実施しない

テキスト

- ・ 中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編，文部科学省，東山書房，2019年
- ・ 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編，文部科学省，東山書房，2018年
- ・ 現代高等保健体育（保体701），大修館書店，2022（令和4）年
- ・ 最新中学校保健体育（保体050-72），大修館書店，2025（令和7）年

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

- ・ 授業への取り組み（50%）：発言や受講態度、グループワークへの積極性、授業内課題及び確認テストによる授業内容の理解度を評価する。
- ・ 事前・事後学修（20%）：事前・事後学修への取り組みと内容を評価する。
- ・ 学期末レポート（30%）：学期末レポートの取り組みと内容を評価する。

授業科目名： 保健体育科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：徐 広孝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校の学習指導要領に基づく体育分野と保健分野の目標、内容、指導法の理解と実践を深化させ、実際の保健体育の授業を想定した学習指導案を作成することを目的とする。また、作成した学習指導案を発表、意見交換し、その質の向上を目指す。到達目標は以下の通りである。</p> <p>1) 学習指導要領に基づく各分野の目標、内容及び指導法を理解する。</p> <p>2) 学習指導案の構成および作成の留意点を理解し、学習指導案を作成することができる。</p> <p>なお、当科目は高校免許では選択科目の扱いとなるが、教科教育に関する幅広い知識・技能の修得という観点から、高校免許取得希望者も保健体育科教育法Ⅲ・Ⅳと合わせて履修することが望ましい。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は中学校の学習指導要領に基づき、保健体育科の各分野の目標、内容及び指導法を理解する。特に各運動領域については、その特性と子どもの発育発達を踏まえた指導ができるよう、体系的に学ぶ。また、学習指導案の構成や作成の留意点を踏まえ、実際の授業を想定して学習指導案を作成し、その発表と討論を行う。最後に、優れた学習指導案に基づく模擬授業を予定している。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：学習指導要領を読み解く①：体づくり運動、器械運動</p> <p>第2回：学習指導要領を読み解く②：陸上競技、水泳</p> <p>第3回：学習指導要領を読み解く③：球技</p> <p>第4回：学習指導要領を読み解く④：武道、ダンス</p> <p>第5回：学習指導要領を読み解く⑤：体育理論</p> <p>第6回：学習指導要領を読み解く⑥：健康な生活と疾病の予防、心身の機能の発達と心の健康</p> <p>第7回：学習指導要領を読み解く⑦：傷害の防止、健康と環境</p> <p>第8回：学習指導案作成の留意点と評価の在り方</p> <p>第9回：学習指導案の作成①：本時の位置、目標、内容、教材観、生徒観、指導観</p> <p>第10回：学習指導案の作成②：評価規準・規準、本時の展開</p> <p>第11回：学習指導案の発表と討論</p> <p>第12回：学習指導案にもとづく模擬授業</p>			

第13回：まとめ（学修内容の振り返りと理解度確認）

定期試験は実施しない

テキスト

- ・ 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編，文部科学省，東山書房，2019年
- ・ 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編，文部科学省，東山書房，2018年
- ・ 現代高等保健体育（保体701），大修館書店，2022（令和4）年
- ・ 最新中学校保健体育（保体050-72），大修館書店，2025（令和7）年

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

- ・ 授業への取り組み（60％）：発言や受講態度、グループワークへの積極性、学習指導案を含む授業内課題及び確認テストによる授業内容の理解度を評価する。
- ・ 事前・事後学修（20％）：事前・事後学修への取り組みと内容を評価する。
- ・ 学期末レポート（20％）：学期末レポートの取り組みと内容を評価する。

授業科目名： 保健体育科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：徐 広孝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目では、高等学校の学習指導要領の理解をふかめるとともに、学校現場で通用する知識の修得と指導力の育成を行う。よい授業を実践するためには、保健・体育ともに優れた「教材」と「教具」を作ることができなければならない。近年は特にICTの活用が求められていることから、保健体育におけるICT教材・教具についても詳しく紹介する。その他、学習の「評価」や、授業における「場づくり」、体育特有の「見学」など、学校現場で重要な事項について学び、指導力の向上を目的として、マイクロティーチングを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高等学校の学習指導要領に示されている目標、内容を理解することができる。 2) 体育における優れた教材、教具について理解し、実際に作成することができる。 3) 保健における優れた教材、教具について理解し、実際に作成することができる。 4) 保健体育授業における部分的な指導を円滑に行うことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、高等学校の学習指導案の理解を深め、優れた保健体育の授業を行うための教材や教具を実際に作ることでできるスキルは身につける。また、学校現場で重要な要素（評価、場づくり、見学の問題など）にも触れ、指導力向上のためのマイクロティーチングを行い、教育実習を見据えた指導力を向上させる。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業概要及び受講上の注意事項の説明） 高等学校学習指導要領の読解①：目標と内容のまとめ</p> <p>第2回：高等学校学習指導要領の読解②：体育分野の内容</p> <p>第3回：高等学校学習指導要領の読解③：保健分野の内容</p> <p>第4回：優れた教材、教具の条件</p> <p>第5回：ICTを活用した教材、教具の実際</p> <p>第6回：教材・教具の作成演習</p> <p>第7回：評価の理論と実際</p> <p>第8回：授業における場づくり</p> <p>第9回：見学の考え方と指導の実際</p> <p>第10回：保健体育教師に求められる指導力と教師行動</p> <p>第11回：マイクロティーチング(1)授業の導入における指導</p>			

第12回：マイクロティーチング(2)授業の展開における指導

第13回：マイクロティーチング(3)授業のまとめにおける指導

定期試験：実施しない（教材・教具の開発課題およびマイクロティーチングの質によって評価する）

テキスト

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」文部科学省、東山書房、2019年

「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 保健体育編」文部科学省、東山書房、2018年

「現代高等保健体育(保体701)」大修館書店、2022(令和4)年

「最新中学校保健体育(保体050-72)」大修館書店、2025(令和7)年

参考書・参考資料等

「授業が盛り上がる 体育の教材・教具ベスト90」小澤治夫・小林博隆 編著、大修館書店、2022年

「保健科教育法入門」日本保健科教育学会 編、大修館書店、2017年

学生に対する評価

- 1) 体育の教材、教具(30%)：提出状況や質を評価する。
- 2) 保健の教材、教具(30%)：提出状況や質を評価する。
- 3) マイクロティーチング(30%)：学習指導案や指導の質を評価する。
- 4) 平常点(10%)：授業への取り組み(発言や受講態度、共同作業への積極性等)を評価する。

授業科目名： 保健体育科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：徐 広孝 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本科目では、中学校および高等学校の保健体育の授業の目標、内容、指導法、学習評価について包括的に扱い、学校現場で通用する知識と指導力をより高度なものにする。はじめに単元計画の作り方や留意点を学び、単元を通した効果的な学習のために不可欠な、教材特性の理解と、その配列の基礎理論を習得する。さらに、「指導と評価の一体化」に基づいた単元目標と評価の方法およびその実際について理解する。授業の後半は、単元計画に準拠した学習指導案を作成し、それに基づいて体育と保健の模擬授業を重点的に実施し、授業力の向上を目指す。なお、到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 単元計画を作成することができる。 2) 単元計画に準拠した学習指導案を作成することができる。 3) 単元計画と学習指導案に基づいた授業を展開できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>保健体育の授業は、学習指導要領に基づいて、特定の内容を数回の授業にわたって指導する。そのまとまりのことを「単元」と呼び、単元の指導計画を詳細に記したものが「単元計画」である。良い授業は、単元の目的を達成するために、毎回の授業内容が効果的に計画されている必要があるため、単元計画と学習指導案は密接な関係を有している。本科目では、実際に単元計画と学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業を重点的に行う。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：単元計画の作り方と留意点</p> <p>第2回：単元計画の作成(1)教材の特性と配列</p> <p>第3回：単元計画の作成(2)単元目標と評価</p> <p>第4回：単元計画の作成(3)学習計画</p> <p>第5回：単元計画と学習指導案の構成</p> <p>第6回：体育の模擬授業(1)単元序盤の模擬授業</p> <p>第7回：体育の模擬授業(2)単元中盤の模擬授業</p> <p>第8回：体育の模擬授業(3)単元終盤の模擬授業</p> <p>第9回：体育の模擬授業(4)振り返り</p> <p>第10回：保健の模擬授業(1)単元序盤の模擬授業</p> <p>第11回：保健の模擬授業(2)単元中盤の模擬授業</p>			

第1 2回：保健の模擬授業(3)単元終盤の模擬授業 第1 3回：保健の模擬授業(4)振り返り 定期試験：実施しない（単元計画、学習指導案、模擬授業によって評価する）
テキスト 「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 保健体育編」文部科学省、東山書房、2019年 「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編」文部科学省、東山書房、2018年 「現代高等保健体育（保体701）」大修館書店、2022（令和4）年 「最新中学校保健体育（保体050-72）」大修館書店、2025（令和7）年
参考書・参考資料等 指定しない
学生に対する評価 1) 単元計画(30%)：提出状況や質を評価する。 2) 学習指導案（20%）：提出状況や質を評価する。 3) 模擬授業（40%）：指導の質や振り返りの内容を評価する。 4) 平常点（10%）：授業への取り組み（発言や受講態度、共同作業への積極性等）を評価する。

授業科目名： 学校経営と学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：庭井史絵 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 学校図書館の教育的意義や経営など全般的な事柄について取り扱う。学校図書館の理念、発展の歴史と課題、教育行政との関わり、司書教諭の役割と校内の協力体制及び研修、学校図書館メディアの選択と管理・提供、学校図書館活動、図書館の相互協力とネットワークに焦点を合わせる。</p> <p>(目標) 学校図書館の役割と機能について、法律や制度、他の図書館（公共図書館や大学図書館）との違いを踏まえて理解し、説明できる。学校図書館が提供しているサービスについて、小中高等学校の事例を挙げながら説明できる。学校図書館と学校の教育課程との関係について、現場の課題を指摘しつつ、あるべき姿と必要な取り組みについて説明できる。司書教諭と学校司書それぞれの業務について、現場でどのように役割分担すればよいかイメージできる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業を、司書教諭の資格を取得するにあたって最初に受講すべき科目と位置づけ、学校図書館の全体像をつかみ、他の4科目の基礎となる知識と技能を習得することを目指す。あるいは、学校司書モデルカリキュラムの1科目として、学校図書館の概要を知ることを目指す。具体的には、学校図書館法、学校図書館の制度、学校図書館の理念、学校図書館史とその課題、教育行政との関わり、司書教諭/学校司書の役割、校内組織と協力体制及び研修、学校図書館メディアの選択と管理・提供、学習センター・情報センター・読書センターとしての学校図書館の機能と役割、学校図書館活動、公共図書館・類縁機関との相互協力とネットワークについて取り上げる。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：学校図書館とは何かー「記憶に残る学校図書館」像の共有 第2回：学校教育の変遷と学校図書館 第3回：学校図書館をめぐる法と行政 第4回：学習指導要領と学校図書館 第5回：学校図書館の経営 第6回：学校図書館担当者の役割と任務 第7回：学校図書館のメディア・施設・設備 第8回：学校図書館メディアの評価 第9回：学校図書館による学習支援 第10回：学校図書館による読書支援 第11回：学校図書館の広報活動 第12回：「記憶に残る学校図書館」の改築 第13回：相互評価・自己評価とまとめ</p>			
<p>テキスト</p> <p>「探究学校図書館学」編集委員会・編著『学校経営と学校図書館（探究学校図書館学1巻）』 全国学校図書館協議会、2019</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に資料を配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の授業時に課す演習や小レポートなど課題に対する評価50%、これらの課題における学生同士の相互評価への貢献度20%、最終課題（学校図書館の設計図）30%で評価する。</p>			

授業科目名： 学校図書館メディアの 構成	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：五十嵐智哉 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校図書館メディアの選択と組織化の意義と実務的方法を学習する。 到達目標は下記のものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 情報メディアの特徴やそれを踏まえた学校図書館メディアの選択・収集の方法を理解する 2) 「日本目録規則」(NCR)、「日本十進分類法」(NDC)、「基本件名目録」(BSH)というメディアの組織化に必要なツールの使い方を理解し、それを利用できるようになる 3) 学校図書館においてメディアを管理する意義を理解し、実際のサービスに活用する方法を考えられるようになる 			
<p>授業の概要</p> <p>学校図書館は情報や知識を基盤とする社会において必要な能力を育成する場となるため、種々のメディアを提供している。教育においてそれらのメディアが活用されるためには、数多く出版や公開されるメディアの中から、学校図書館で収集するものを選択し、それを適切に管理することが必要となる。本科目では、各種メディアの選択や収集の方法、メディアを管理する手法である組織化の方法について学習する</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：ガイダンス（講義の進め方について） 学校図書館の目的・機能と学校図書館メディア</p> <p>第2回：学校図書館メディアの種類と特性</p> <p>第3回：国内の出版流通システム 学校図書館におけるメディアの選択の重要性</p> <p>第4回：学校図書館におけるコレクション構築とその手法</p> <p>第5回：コレクションの評価と更新</p> <p>第6回：学校図書館メディアの組織化の手法（1）：目録法</p> <p>第7回：目録法の演習</p> <p>第8回：学校図書館メディアの組織化の手法（2）：分類法</p> <p>第9回：分類法の演習</p>			

第10回：学校図書館メディアの組織化の手法（3）：件名標目法

第11回：件名標目法の演習

第12回：学校図書館メディアを活用するためのメディアの配置

学校図書館メディアの構成に関わる他機関との連携

第13回：目録の機械化・デジタル化

講義のまとめ

定期試験は実施しない

テキスト

なし

参考書・参考資料等

探究学校図書館学編集委員会編著「学校図書館メディアの構成（探究 学校図書館学 2巻）」

全国学校図書館協議会、2020、173p.

学生に対する評価

受講態度および講義内小レポート（50%）、最終レポート（50%）

授業科目名： 学習指導と学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：庭井史絵 担当形態：単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(テーマ) 学習指導における学校図書館メディアの活用について取り上げる。教育課程と学校図書館、発達段階に応じた学校図書館メディアの選択、児童・生徒の学校図書館メディア活用能力の育成、学習過程における学校図書館メディア活用の実際、学習指導における学校図書館の利用、情報サービス（レファレンスサービス等）、教師への支援と働きかけについて焦点を合わせる。</p> <p>(目標) 学校図書館が教育課程の展開に寄与するために必要な情報環境、サービス、情報リテラシー教育について理解し、学校教育に必要な資料の選択や、資料・情報を活用した学びの指導ができるようになる。情報探索プロセスモデルや探究モデルについて理解し、それらの理論を踏まえた上で、学校図書館を活用した授業計画が立てられるようになる（指導案を作成し、プレゼンテーションできる）。学習指導要領のねらいに即した「探究学習」をデザインできるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>小中高等学校で行われる教育活動に学校図書館がどのように関わり、児童・生徒の学びをいかに支援するのかについて取り上げる。学校図書館は、単に読書材を提供する場ではない。司書教諭や学校司書は教科教員と連携して、授業計画を立て、チームティーチングによる指導を実践する必要がある。また児童・生徒の学びを支援するための情報環境を作り、それらが効果的に利用されるようさまざまなサービスを提供しなければならない。教育課程の展開に寄与する学校図書館のあり方について学び、学生自らが「学校図書館を活用した授業」の指導案を作成できることを目標とする。指導案作成にあたっては、探究学習や情報利用に関する理論モデルを踏まえることとする。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：学校図書館を必要とする教育とは</p> <p>第2回：学校教育に必要とされる資料と学校図書館メディア</p> <p>第3回：学校図書館における資料提供</p> <p>第4回：（演習）図書資料の選択</p> <p>第5回：（演習）図書以外の資料の選択</p> <p>第6回：学校図書館メディアを活用するための指導</p> <p>第7回：探究学習のプロセス</p> <p>第8回：探究学習に必要なスキル</p> <p>第9回：「課題の設定」「情報の収集」における指導</p> <p>第10回：「整理・分析」「まとめ・表現」における指導</p> <p>第11回：学校図書館を活用した授業の分析</p> <p>第12回：学校図書館を活用した授業の設計</p> <p>第13回：指導案の紹介と相互評価</p>			
<p>テキスト</p> <p>資料を配布する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都立高等学校学校司書会ラーニングスキルガイドプロジェクトチーム編著「探究に役立つ！学校司書と学ぶレポート・論文作成ガイド」ペリカン社（2019）、978-4-8315-1551-3 ・桑田てるみ著「チームでつくる探究的な学び 授業のヒントは学校図書館に」全国学校図書 			

館協議会（2024）、978-4793301056

学生に対する評価

授業内の課題によって評価する。具体的には、「学校図書館を活用した授業実践例」の調査調査・報告（20%）、資料リスト作成（20%）、「学校図書館を活用した授業」の指導案と教材の作成（40%）、これらの課題における相互評価への貢献度（20%）による。

授業科目名： 読書と豊かな人間性	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中山美由紀 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1. 生涯にわたる読書や学校教育での読書指導や読書推進の意義を理解し、校内や地域での連携や協力をもとに発達段階に合った適切な読書推進について説明することができる。</p> <p>2. 読書材の種類を学び評価し、読書を導く指導技術を身につけ、読書環境を整備し、司書教諭の役割を知るとともに学校図書館の読書センター機能を充実させ、校内全体計画の立案をすることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>・児童生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と指導を学ぶ。学校図書館がリーダーシップをとって展開する読書指導や環境整備について、実践や事例から読書週間や年間計画などを学ぶ。また、読み聞かせやブックトークなどの演習を通じて探究も含めた学習支援の読書についても考えを深め、学校図書館の読書センターの機能充実について学ぶ。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：オリエンテーション：科目概要と読書体験の振り返りと読書の意義</p> <p>第2回：読書・学習環境としての学校図書館の役割</p> <p>第3回：発達段階に応じた読書興味と読み聞かせ演習</p> <p>第4回：資料の種類と特性とノンフィクション読書のすすめ</p> <p>第5回：学習指導要領に見る「読みの指導」の系統と「指読み」のすすめ</p> <p>第6回：YA（ヤングアダルト：小学校高学年から中高年生）に向けた作品と作者</p> <p>第7回：教養としての読書：名作やロングセラー</p> <p>第8回：読書調査に見る児童生徒の読書生活の実態と課題</p> <p>第9回：ブックトークまたはビブリオバトルの演習</p> <p>第10回：学校における読書年間計画と活動</p> <p>第11回：多様な子どものニーズに対応する読書</p> <p>第12回：読書推進に関する国の施策と地域連携・協力</p> <p>第13回：これからの読書推進の課題と展望</p>			
<p>テキスト</p> <p>（司書教諭テキストで2024年・2025年のよいものがあれば、指定する可能性がある。）</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『読書と豊かな人間性（ライブラリー学校図書館学）』（金沢みどり、河村俊太郎共著 勉誠社 2023年）</p> <p>・授業中に適宜資料も配布する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>最終レポート（40%）、演習および中間レポート（35%）、平常点:毎回の授業のリフレクション（25%）</p>			

授業科目名： 情報メディアの活用	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：五十嵐智哉 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校教育における多様な情報メディアの特性と活用方法、関連する法制度について扱う。 到達目標は下記のものである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人々の情報探索行動の特長を把握した上で、多様なニーズに適した情報メディアを選択し活用することが出来る 2) サーチエンジンやオンライン蔵書目録など情報検索ツールを使用して求める情報を適切に検索・収集することが出来る 3) 学校図書館と情報メディアの課題を理解し、解決策や展望などを持つことが出来る 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、多種多様な情報メディアの構造とその特長、情報検索のためのメディアと検索方法、情報活用の方法、情報発信など、学校教育において児童・生徒の情報リテラシーを育成するために必要不可欠な知識を学習し、技術を身につける。また、著作権法などの情報メディアを扱うのに必要となる法制度も学習する。そして、学校図書館を活用した情報の利用教育が行えるようにする。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：ガイダンス（授業の進め方について） 司書教諭と学校司書の制度的位置付け</p> <p>第2回：情報メディアの発展の歴史 学校や学校図書館の情報化政策</p> <p>第3回：情報通信に関わる技術</p> <p>第4回：学校教育と情報リテラシー 伝統的な情報資源と電子情報資源</p> <p>第5回：データベースでの情報検索 情報検索の技法</p> <p>第6回：インターネット利用における法と倫理</p>			

第7回：著作権とその他の知的財産権

学校図書館や情報活用と著作権

第8回：学校と学校図書館で活用できる情報資源(1)：図書媒体の情報資源

第9回：学校と学校図書館で活用できる情報資源(2)：データベース情報資源

第10回：情報探索の演習

第11回：学校以外の地域とのネットワークと情報共有

特別支援教育と情報資源

第12回：最新のICT技術と社会に生じている課題

第13回：学校図書館における情報メディアの展望

講義のまとめ

定期試験は実施しない

テキスト

なし

参考書・参考資料等

探究学校図書館学編集委員会編著「情報メディアの活用（探究 学校図書館学 5巻）」

全国学校図書館協議会、2021、223p.

学生に対する評価

受講態度および講義内小レポート（50%）、最終レポート（50%）

授業科目名： 道徳教育の理論と実践	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：櫻井 歓 担当形態：単独
科 目	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校） ・大学が独自に設定する科目（高等学校） 		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法（中学校）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ：道徳教育とは何か。人が道徳的に行為するとはどのようなことか。本科目ではこうした原理的な問いを大切にしながら道徳教育への理解を深め、実践的な指導力を身に付けられるよう、その理論や歴史を学ぶとともに、「学習指導要領」や「道徳科」教材の研究、道徳の授業研究、模擬授業などを行う。</p> <p>到達目標：学生諸君が講義やアクティブ・ラーニングによる学修を通じて、道徳教育の目標や内容、指導計画などを理解するとともに、学習指導案の作成や教材研究、授業研究などを通じて、実践的な指導力を身に付けることを到達目標とする。</p> <p>本科目の到達目標を分節化して示すと以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 重要な学習テーマや効果的な教材選択を意識した道徳科の学習指導案を作成することができる。 (2) 道徳教育の歴史や現状を踏まえて道徳教育の課題や可能性を論じるレポートを作成することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>授業の方法：担当教員による講義と、アクティブ・ラーニングの一環としての小グループによる意見交換、模擬授業などを有機的に組み合わせ、効果的に授業を行う。授業を対話的に展開するため、各回の授業内容に関する小レポートを書いてもらい、次の回で何人分かを紹介してコメントする。</p> <p>準備学習の内容：本科目では、授業への参加は言うまでもなく、授業外での準備学習が重要である。各回の授業の復習のほか、テキストや授業資料の予習、さらに学習指導案作成の課題などについては、受講者各自による授業外での主体的な取り組みが求められる。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：開講にあたって（ガイダンス、導入の「道徳」クイズ、受講者の「道徳教育」体験のふり返り）</p> <p>第2回：道徳をどう捉えるか―道徳の概念（「道徳」の意味、至るところにある道徳問題）</p> <p>第3回：道徳性の発達と教育をめぐる理論（「ハイネツのジレンマ」、コールバーグ理論とその批判）</p>			

第4回：「学習指導要領」にみる道徳教育（学習指導要領の意義と変遷、道徳教育をめぐる記述）
 第5回：学校の教育活動全体を通じての道徳教育／「特別の教科 道徳」（道徳科）の学習指導案
 第6回：道徳科の学習評価／道徳教育教材の研究（読み物資料「手品師」による授業とその検討）
 第7回：現代社会の道徳教育課題（いじめ・情報モラルなどを扱う教材の紹介と検討）／中間課題（学習指導案）の交流会（グループワーク）

〔中間課題：小学校または中学校を想定した道徳の授業1回分の学習指導案を作成して提出する〕

第8回：道徳教育の歴史（戦前：修身教育体制、戦後：「全面主義」から「道徳の時間」そして「道徳科」へ）

第9回：宗教教育と道徳教育（宗教教育の諸概念、「宗教的情操教育」をめぐる）

第10回：多文化社会とナショナル・アイデンティティ（スコットランドのカリキュラム分析より）

第11回：道徳科の模擬授業（中間課題として作成した学習指導案に基づく模擬授業とその振り返り）

第12回：道徳教育実践の研究(1)教育実践記録から学ぶ学級づくりと道徳の授業づくり

第13回：道徳教育実践の研究(2)高等学校における事例の検討／期末レポート交流会（グループワーク）

期末レポート（本科目の総括的レポート）として、道徳教育の課題や可能性について授業内容を踏まえたレポートを執筆し提出する。

テキスト

教科書：藤田昌士・奥平康熙監修、教育科学研究会「道徳と教育」部会編『道徳教育の批判と創造』（エイデル研究所、2019年）

参考書・参考資料等

「中学校学習指導要領」（文部科学省、平成29年3月）

「中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」（文部科学省、平成29年7月）

学生に対する評価

各回の授業への出席（教室にて受講し、小レポートを提出すること）を前提条件として、中間課題（学習指導案）（40%）および期末レポート（60%）により評価する。なお、授業への積極的な取り組み（模擬授業の実施など）を加味する場合がある。

授業科目名： 介護等体験の意義と 実践	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名：池亀直子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 中学校教員免許の必修となる介護等体験活動の事前・事後指導および介護等体験実習のために 設けられた授業である。授業の目標は以下3点である。 1.学外で実施する体験実習であることから、実習生・社会人としての礼節と責任感（挨拶や言 葉遣い、身だしなみ、時間厳守、事前手続きなど）が求められていることを自覚し、学校教 員、施設教職員の立場から考え、行動できるようになることを第一の目標とする。 2.実際の介護体験実習を通して、特別な支援を要する児童・生徒、ならびに介護を必要とする 高齢者らとの交流から、自らの教員としての適格性を考える。 3.次年度の教育実習に向けて、事前事後指導及び介護等体験を通して自らの課題に気づき、実 習の実際的な準備を進める。			
授業の概要 介護等体験は、学校教員が個人の尊厳及び社会連帯に関する認識を深めることの重要性に鑑 み、教員の資質向上と学校教育の一層の充実のために、小学校・中学校の教員を目指す者に義 務づけられている体験活動である。授業は3年次の受講を原則とし、学内における事前事後指 導および特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間の介護等体験実習をもって構成され、事前 事後指導における課題提出と体験先における体験証明および介護等体験ノートの完成をもって 修了となる。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回：ガイダンス、実習期間の調整および期間中の課題設定 第2回：外部実習における実習生の心構え 第3回：外部実習に向けた準備について 第4回：特別支援学校事前学習 第5回：社会福祉施設事前学習 第6回：実習直前指導 特別支援学校 外部実習（1）特別支援学校2日間（5月-8月） 第7回：実習事後指導 特別支援学校 第8回：実習直前指導 社会福祉施設 外部実習（2）社会福祉施設5日間（8-12月） 第9回：先輩の体験を聞く(1) 実習の流れと実習生の動き 第10回：先輩の体験を聞く(2) 教育実習に向けて 第11回：実習事後指導 社会福祉施設 第12回：介護等体験全体の振り返り 第13回：まとめと介護等体験レポートの完成 定期試験は実施しない			
テキスト 現代教師養成研究会 『教師をめざす人の介護等体験ハンドブック（五訂版第2刷）』大修館 書店 2022年			
参考書・参考資料等 亜細亜大学介護等体験活動学習ノート			
学生に対する評価			

定期試験は実施せず、学内指導及び実習（特別支援学校 2 日間、社会福祉施設 5 日間）の総合評価とする（学内指導における課題および介護等体験実習レポートの提出と内容 60%、介護等体験実習（特別支援学校 2 日間、社会福祉施設 5 日間） 40%）

授業科目名： 教育ボランティア	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：三浦朋子 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p><授業のテーマ></p> <p>教育現場でのボランティア活動を通じて、子どもたちの特性や活動場面に応じた、実践的な指導力を養うことを目標とする。教員の役割や職務内容、生徒との適切な関わり方、学習指導に必要な技術などを体験的・総合的に理解する。また、各自の活動経験を振り返り、自らの教員としての能力や適性、必要な知識・技能について考察する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育ボランティア活動を通して何を学ぶのか、各自の問題意識を明確にする。 2. 教育に携わるものに必要となる能力や適性とは何かを考え、また、それらを主体的に伸ばそうとする。 3. 様々な活動場面に応じて、適切なコミュニケーションを取りながら、他者との関わりをもつ。 4. 子どもたちの特性に応じた指導や支援の仕方を実践的に学ぶ。 5. 各自の活動経験を振り返り、今後の教職履修を進めていく上での自己の学習課題を設定する。 			
<p>授業の概要</p> <p>本科目は、教職課程を履修する学生（1年生から4年生対象）が、学内外で行う教育ボランティア活動に対して、一定の要件を満たした場合に、単位を認定するものである。ボランティアの活動期間は、原則4月から翌年1月までとし、合計30時間以上の活動を行うことが条件である。授業では、ボランティア活動の紹介、事前・事後指導、中間報告、最終報告を行う。前期の事前指導では、「なぜ自分がボランティア活動に関心を持ったのか」、「ボランティア活動を通して何を学びたいか」など、各自の問題意識を明確にした上で、各々の活動に取り組む。前期の段階で、今年度行うボランティア活動の計画を立て、それを遂行できるよう授業内で支援する。中間報告では、前期の活動を通してそれぞれが学んだことを報告し、後期以降の活動に活かせるようにする。最終報告では、今年度の活動のまとめとして発表を行い、今後の教職の学びにつながる振り返りを行う。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p><前期></p> <p>第1回：オリエンテーション、アイスブレイキング</p>			

第2回：教育ボランティアの説明会、活動の実際（外部のボランティア担当者や経験者から）

第3回：活動計画の立案、ワークショップ

第4回：中間報告～前期の活動の振り返り

<後期>

第5回：後期以降の活動目標の設定～夏季休暇中の活動報告、今後の活動予定の確認～

第6回：最終報告①前半グループ

第7回：最終報告②後半グループ、活動経験から今後の学習課題をまとめる

テキスト

『教育ボランティア活動記録』

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

①教育ボランティア活動（30時間以上）に関する毎回の活動記録 50%

②平常点（授業への参加やコメント提出など） 20%

③中間および最終報告 30%

授業科目名： 暮らしのなかの憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：奥山 亜喜子 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>日本国憲法は教育基本法及び学校教育法の基礎となるもので、教育に携わるものとして、その基本的な内容を十分に理解しておくことが必須である。本科目は、教職に就くことをめざす者として理解を深めておかなければならない憲法の基本部分を学ぶ。基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義の三つを基本原則とする憲法の基本的性格を確認し、国会、内閣、裁判所などの政治機構の概略を正確に理解し、政治と法の機能、人権保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義などについて理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>18歳選挙権が導入され、主権者教育の重要性がさらに高まっている。基本的人権の尊重を根本原理とし、政治の基本原則を定める日本国憲法に関して、すでに中学や高校の社会科で学んできているはずである。しかしながら、「憲法が自分達の生活とどのような点で関わっているのか」「そこに書かれていることが政治にどのようにいかされているのか」と生徒に聞かれた時にきちんと説明することができるだろうか。この授業では、憲法をめぐる「いま」に目を向け、社会生活において憲法の理念・内容がどのように具体化されているのかについて主体的に考え、理解を深めていく。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：憲法をめぐる近年の動向…最近の社会問題と日本国憲法の関係は？</p> <p>第2回：大日本帝国憲法制定史…日本における立憲主義の芽生えと挫折</p> <p>第3回：日本国憲法制定史…立憲主義の再生、そして今後</p> <p>第4回：国民主権と天皇制…皇位の継承（生前退位、女性皇族の地位）をめぐる議論の確認</p> <p>第5回：政治過程と国民…選挙を通じた国民の意思決定、その反映としての立法、行政について</p> <p>第6回：基本的人権とは何か？どのように保障するか？…歴史、内容、享有主体、そして人権保障の砦としての裁判所（司法）について</p> <p>第7回：新しい人権…情報化社会におけるプライバシー権、自己決定権を中心に</p> <p>第8回：法の下での平等…ヘイトスピーチ問題、広い意味でのジェンダー差別の問題を考える</p> <p>第9回：精神的自由権…表現の自由をめぐる現代的課題（SNS規制、上映・展示の妨害への対応）</p> <p>第10回：経済的自由権…コロナ禍における営業の自由から生存権にいたるまでの議論を整理する</p> <p>第11回：社会権…特に教育を受ける権利について、教育の自由、オンライン教育の普及との関係において考える</p> <p>第12回：平和主義…最近の国際社会の動向をふまえた上で、9条の解釈をめぐる議論を確認する</p>			

第13回：憲法改正…改正国民投票法の手続、憲法改正の議論を確認し、日本国憲法のこれからを考える

テキスト

- ・『ポケット六法（最新版）』（有斐閣）

参考書・参考資料等

- ・古野豊秋・畑尻剛編『新・スタンダード憲法（最新版）』（尚学社）
- ・志田陽子編『合格水準 教職のための憲法』（法律文化社）
- ・工藤達朗編『よくわかる憲法（第2版）』（ミネルヴァ書房）
- ・別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ、Ⅱ』第7版（有斐閣）

学生に対する評価

期末の筆記試験80%、授業内課題（レポート）20%の割合で評価する。

授業科目名： Freshman English I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：ブルックス M. 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を活用する、総合スキル型授業である。この科目は外国人講師による週2回の授業となる。語彙、構文、発音、会話練習を取り入れ、実践的な語学学習を目指す。また、学生が関心ある様々なトピックを取り上げることで、学習意欲を促進すると同時に、これらのスキルが身につく様なアクティビティを随時行う。</p> <p>以下を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クラスルーム・イングリッシュを英語で活用しながら、教員に対して疑問点の確認や授業内の進め方の調整など求めたり、または学生同士、協力し合ったりする表現などを習得する。 2. 英会話能力を身につけ、より自信を持って英語を活用することを目指す。 3. 批判的思考とディスカッションスキルをより身につけ、自分の考えや意見を明確に述べて、教材テーマがどのように日常生活や自分自身の経験と関連し、影響を与えているかを説明できるようにする。 4. 個々の学生が自分の口頭および筆記コミュニケーション能力の長所や短所についての新たな「気づき」や「発見」などにつなげ、同時に実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。 5. 異文化コミュニケーションについて理解を深め、様々な場面や多様な価値観を持つ方との英語コミュニケーション方法について学んで行く。 6. 自分の意見や考えをまとめて書き、事前に準備した形での英語プレゼンテーションを実践する能力を育んでいく。 			
<p>授業の概要</p> <p>「Freshman English I」は実践的なコミュニケーションやプロジェクトベース学習の要素を取り入れた授業内容を介して、英語運用能力の向上を目指す大学レベルのクラスである。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4つの主要言語スキルに重点を置き、特に会話力や会話スキル、質問の形成、意見やアイデアを明確に表現できる練習も随時行う。様々なインタラクティブなアクティビティ、プロジェクトやプレゼンテーションなどを通して、英語に対する自信をつけ、実社会の多様な状況に合わせて対応できる英語コミュニケーション能力を高める事を目的とする。</p>			

授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】

第1回：Orientation, Ice-breaking Activities, Self-Introductions, and Classroom English

オリエンテーション、アイスブレイク、自己紹介、授業で使う英語

第2回：Talking About Interests (*Textbook Unit 1*)

興味・関心あることについて話す（教科書 Unit 1）

第3回：Exercise Habits and Peoples' Free-time Activities (*Textbook Unit 1*)

運動習慣と余暇活動（教科書 Unit 1）

第4回：Interview Practice (Interests + Sports) / Discussion Time (Other people's interests)

インタビュー練習（興味・スポーツ）／ディスカッション（他者の興味について）

第5回：Descriptions: Personality Traits (*Textbook Unit 2*)

性格の特徴を説明する（教科書 Unit 2）

第6回：Describing Appearances and Family Members (*Textbook Unit 2*)

外見や家族構成について説明する（教科書 Unit 2）

第7回：Language for Socializing and Sharing Information / Discussion Time (Online Profiles)

社交の場での表現と情報共有／ディスカッション（オンラインプロフィール）

第8回：Weather and Seasons (*Textbook Unit 3*)

天気と季節（教科書 Unit 3）

第9回：Deciding on What to Do (*Textbook Unit 3*)

何をするか決める（教科書 Unit 3）

第10回：Traveling and Visiting Places / Discussion Time (Places of Interests)

旅行と観光／ディスカッション（観光名所）

第11回：Presentation Workshop 1 (Topic Selection: Recommended Place to Visit)

プレゼンテーションワークショップ 1（テーマ選定：おすすめの旅行先）

第12回：Presentation Workshop 2 (Researching and Outlining)

プレゼンテーションワークショップ 2（リサーチとアウトライン作成）

第13回：Presentation Workshop 3 (Writing a Script and Proofreading)

プレゼンテーションワークショップ 3（スクリプト作成と校正）

第14回：Presentation Workshop 4 (Mini-Presentation and Summary)

プレゼンテーションワークショップ 4（ミニプレゼンテーションとまとめ）

第15回：Life at Home: Living Arrangements and Interior Layouts (*Textbook Unit 4*)

家庭での生活：住居の形態と間取り（教科書 Unit 4）

第16回：Household Chores (*Textbook Unit 4*)

家事や家庭内の日常的なタスク（教科書 Unit 4）

第17回：Interview Practice (Household Chores) / Discussion Time (The Ideal Home)

インタビュー練習（家事）／ディスカッション（理想の家）

第18回 : *Survey Creation Workshop 1* (Daily Routines and Lifestyle Choices)

アンケート作成ワークショップ 1 (日常生活とライフスタイルの選択)

第19回 : *Survey Creation Workshop 2* (Writing and Editing Questions)

アンケート作成ワークショップ 2 (質問の作成と編集)

第20回 : *Survey Creation Workshop 3* (Interviewing and Data Collection)

アンケート作成ワークショップ 3 (インタビューとデータ収集)

第21回 : *Survey Creation Workshop 4* (Summarizing your Results and Looking for Trends)

アンケート作成ワークショップ 4 (結果の要約と傾向の分析)

第22回 : *Healthy Habits and Lifestyle Choices (Textbook Unit 5)*

健康習慣とライフスタイルの選択 (教科書 Unit 5)

第23回 : *Stress, Illness, and Maintaining your Health (Textbook Unit 5)*

ストレス、病気、健康管理 (教科書 Unit 5)

第24回 : *Interview Practice (Health Habits) / Discussion Time (Managing Stress)*

インタビュー練習 (健康習慣) / ディスカッション (ストレス管理)

第25回 : *Final Examination and Self-Reflection Activity*

期末試験と自己振り返り活動

第26回 : *Review of the First Semester / Interview Practice and Discussion (Summer Vacation Plans)*

第1学期の復習 / インタビュー練習とディスカッション (夏休みの計画)

テキスト

Four Corners Series [Second Edition] (Cambridge)

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

最終成績は平常点 (グループディスカッションや、授業への参加状況)、プロジェクト関連提出物 (プロジェクトやワークショップ形式にて提出する課題などの提出状況)、小テストや期末テスト結果から総合的に判断する。状況に応じ、配点を変更する場合は、授業内および manaba コースニュースで連絡を行う。

平常点 (40%)

プロジェクト関連課題 (30%)

小テスト・期末テスト (30%)

授業科目名： Freshman English II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：ブルックス M. 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能を活用する、総合スキル型授業である。この科目は外国人講師による週2回の授業となる。語彙、構文、発音、会話練習を取り入れ、実践的な語学学習を目指す。また、学生が関心ある様々なトピックを取り上げることで、学習意欲を促進すると同時に、これらのスキルが身につく様なアクティビティを随時行う。</p> <p>以下を目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クラスルーム・イングリッシュを英語で活用しながら、教員に対して疑問点の確認や授業内の進め方の調整など求めたり、または学生同士、協力し合ったりする表現などを習得する。 2. 英会話能力を身につけ、より自信を持って英語を活用することを目指す。 3. 批判的思考とディスカッションスキルをより身につけ、自分の考えや意見を明確に述べて、教材テーマがどのように日常生活や自分自身の経験と関連し、影響を与えているかを説明できるようにする。 4. 個々の学生が自分の口頭および筆記コミュニケーション能力の長所や短所についての新たな「気づき」や「発見」などにつなげ、同時に実践的な英語コミュニケーション能力の向上を図る。 5. 異文化コミュニケーションについて理解を深め、様々な場面や多様な価値観を持つ方との英語コミュニケーション方法について学んで行く。 6. 自分の意見や考えをまとめて書き、事前に準備した形での英語プレゼンテーションを実践する能力を育んでいく。 			
<p>授業の概要</p> <p>当科目は「Freshman English I」につづくクラスである。前期で築いた英語基礎力をさらに発展させ、実践的なコミュニケーション活動やプロジェクトベースの学習体験を通して、学生の英語運用能力を向上させる。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4つの基本的な言語スキルを活用しながら、秋学期では英語での自己表現、会話とディスカッションのスキル、リスニングとノートの取り方に重点を置いた授業内容となる。また共同プロジェクト、学生らの関心が高いトピックに基づいたディスカッション、個人またはグループでのプレゼンテーションなどを通して、実社会やアカデミックな場での英語コミュニケーションに必要な自信と流暢さを身につける事を目指す。</p>			

授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】

- 第1回：Welcoming Students Back, Classroom English Review,
新学期の挨拶、授業で使う英語の復習
- 第2回：Shopping and Fashion (*Textbook Unit 7*)
買い物とファッション（教科書 Unit 7）
- 第3回：Consumer Habits and Comparing Products (*Textbook Unit 7*)
消費習慣と商品の比較（教科書 Unit 7）
- 第4回：Role-play Practice (Bargaining Situation / Discussion Time (Places to Shop))
ロールプレイ（値引き交渉の場面）／ディスカッション（買い物スポット）
- 第5回：Fun in the City: Tourism and Places of Interest (*Textbook Unit 8*)
都市の楽しみ方：観光と名所（教科書 Unit 8）
- 第6回：Comparing Places and Making Choices (*Textbook Unit 8*)
場所の比較と選択（教科書 Unit 8）
- 第7回：Role-play Practice (Tourist Information Desk) / Discussion Time (Places to Visit)
ロールプレイ（観光案内所）／ディスカッション（訪れたい場所）
- 第8回：Famous Individuals and Achievements (*Textbook Unit 9*)
有名人とその功績（教科書 Unit 9）
- 第9回：Inspiring Individuals and People Who Make a Difference (*Textbook Unit 9*)
影響力のある人物と社会に貢献した人々（教科書 Unit 9）
- 第10回：Talking About Historical Feats / Discussion Time (Inventions and Technology)
歴史的偉業について話す／ディスカッション（発明品とテクノロジー）
- 第11回：Presentation Workshop 1 (Topic Selection: Careers and Occupations)
プレゼンテーションワークショップ 1（テーマ選定：職業とキャリア）
- 第12回：Presentation Workshop 2 (Researching, Writing, and Proofreading)
プレゼンテーションワークショップ 2（リサーチ、ライティング、校正）
- 第13回：Presentation Workshop 3 (Non-verbal Communication and Presentations Week 1)
プレゼンテーションワークショップ 3（非言語コミュニケーションと発表練習1）
- 第14回：Presentation Workshop 4 (Presentations Week 2 and Summary)
プレゼンテーションワークショップ 4（発表練習2とまとめ）
- 第15回：Dining Out and Eating Habits (*Textbook Unit 10*)
外食と食習慣（教科書 Unit 10）
- 第16回：Ordering Food and Talking about Menus (*Textbook Unit 10*)
食事の注文とメニューについて話す（教科書 Unit 10）
- 第17回：Role-play Practice (Restaurant Situation) / Discussion Time (Food Preferences)
ロールプレイ（レストランの場面）／ディスカッション（好きな食べ物）

<p>第18回 : <i>Survey Creation Workshop 1</i> (Consumer Habits) アンケート作成ワークショップ 1 (消費習慣)</p> <p>第19回 : <i>Survey Creation Workshop 2</i> (Writing and Editing Questions) アンケート作成ワークショップ 2 (質問の作成と編集)</p> <p>第20回 : <i>Survey Creation Workshop 3</i> (Interviewing and Data Collection) アンケート作成ワークショップ 3 (インタビューとデータ収集)</p> <p>第21回 : <i>Survey Creation Workshop 4</i> (Analyzing the Data and Summarizing your Results) アンケート作成ワークショップ 4 (データ分析と結果の要約)</p> <p>第22回 : Entertainment and Personal Preferences (<i>Textbook Unit 11</i>) エンターテインメントと個人の好み (教科書 Unit 11)</p> <p>第23回 : Asking and Giving Suggestions (<i>Textbook Unit 11</i>) 提案の仕方と求め方 (教科書 Unit 11)</p> <p>第24回 : <i>Interview Practice</i> (Favorite Movies) / <i>Discussion Time</i> (Suggestions for the weekend) d) インタビュー練習 (お気に入りの映画) / ディスカッション (週末のおすすめプラン)</p> <p>第25回 : Final Examination and Self-Reflection Activity 期末試験と自己振り返り活動</p> <p>第26回 : Review of the Second Semester / <i>Interview Practice and Discussion</i> (Milestones and Personal Change) 第2学期の復習 / インタビュー練習とディスカッション (人生の節目と自己成長)</p>
<p>テキスト</p> <p>Four Corners Series [Second Edition] (Cambridge)</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>最終成績は平常点 (グループディスカッションや、授業への参加状況)、プロジェクト関連提出物 (プロジェクトやワークショップ形式にて提出する課題などの提出状況)、小テストや期末テスト結果から総合的に判断する。状況に応じ、配点を変更する場合は、授業内および manaba コースニュースで連絡を行う。</p> <p>平常点 (40%) プロジェクト関連課題 (30%) 小テスト・期末テスト (30%)</p>

授業科目名： データサイエンス入門	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：堀 玄 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工智能に関する科目又は情報機器の操作 数理、データ活用及び人工智能に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>近年、マーケティング分野や医療分野をはじめとする産業界の多くの分野でデータサイエンスが重要な役割を果たしている。データサイエンスを各分野で効果的に応用するためには、「データの適切な扱いと前処理」、「適切なアルゴリズムの選択」、「結果の適切な解釈」を習得する必要がある。本科目では、データサイエンス分野で広く用いられているプログラミング言語を使用し、実データを使った演習を通じてこれらの内容を習得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>ディープラーニング（深層学習）などの機械学習分野の最新の手法を実データに適用できるようになることゴールとして、データサイエンスや人工智能の分野で標準的に使われているプログラミング言語Pythonを用いて、以下の内容について学習する。まずデータ駆動型社会や生成AIに至るAI開発の歴史などの背景について解説した後、変数や制御構造、関数などのPythonによるデータ処理プログラミングの基礎を学習し、次にデータ処理に必要となる数値計算ライブラリとグラフ描画ライブラリの利用法を学習する。後半では、分類問題、回帰分析やクラスタリングなどの機械学習の基本的な手法から、ディープラーニングによる画像の分類、畳み込みニューラルネットによる画像の認識、生成AIなどの最新の手法までを、実データを使った演習を通じて学習する。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：データ駆動型社会とSociety5.0</p> <p>データサイエンスの活用とビジネスモデル：知識発見、判断支援など</p> <p>ビッグデータの収集・蓄積と活用事例、クラウドサービス</p> <p>AIの歴史と応用：推論と探索、エキスパートシステム、AIの応用分野</p> <p>AIの構築と運用：AIの開発環境、学習と推論、評価、AIとロボット(家庭用、産業用)</p> <p>生成AIの応用と革新（対話、コンテンツ生成、翻訳・執筆支援、コーディング支援、プロンプトエンジニアリング）</p> <p>生成AIの留意事項（誤情報、偽情報、有害コンテンツの生成）</p> <p>第2回：データ表現とデータ分析、セキュリティ</p> <p>コンピュータで扱うデータ：数値、テキスト、画像、音声、動画</p> <p>データ分析の手法：分類、回帰、クラスター分析</p> <p>データ分析の進め方、仮説検証サイクル</p>			

ITとセキュリティ(機密性、完全性、可用性)、暗号化・復号化、公開鍵暗号・電子署名

第3回：データ分析プログラミングの基礎

Pythonの文法：変数、代入、演算子、条件分岐、繰り返し、配列、関数

アルゴリズムの表現(フローチャート、アクティビティ図)、並び替え(ソート)、検索(サーチ)

第4回：数値計算ライブラリ・グラフ描画ライブラリ

NumPy：ベクトル・行列の演算、乱数

pandas：DataFrameの操作、標準化、ダミー変数、クレンジング(欠損値処理など)

Matplotlib：各種グラフの描画

時系列データ：移動平均、トレンド、周期、ノイズ

第5回：機械学習の基礎、分類問題

教師あり学習、教師なし学習、強化学習

学習データとテストデータの分割、交差検証法、過学習、混同行列、現象のモデル化

決定木による分類

分類問題の活用事例(異常検知、商品推薦など)

第6回：回帰分析

機械学習における回帰分析、単回帰分析、重回帰分析、最小二乗法

ロジスティック回帰分析、最尤法

予測技術の活用事例(売上予測、罹患予測など)

第7回：クラスター分析

k-meansクラスタリング、階層的クラスタリング、デンドログラム、次元削減

モデルの評価、ハイパーパラメータの調整

クラスター分析の活用事例(顧客セグメンテーション、店舗クラスタリングなど)

第8回：スクレイピング、IoT

Webページから取得したデータの解析(プロトコル、インターネットの仕組み、

Webクローラー、スクレイピング)

IoTによるデータの収集(エッジデバイス、センサーデータ)

sqlite(リレーショナルデータベース、テーブル、SQL)

第9回：自然言語処理、画像処理

形態素解析、Bag of Words、TF-IDF、極性判定、単語・文章の類似度

自然言語処理の活用事例

Pythonによる画像データ処理

第10回：ディープラーニング (分類問題)

ニューラルネットワークの原理、ディープニューラルネットワーク(DNN)

ディープニューラルネットワークの実応用(画像認識、自然言語処理など)

ディープニューラルネットワークによる手書き数字の画像分類

第11回：ディープラーニング（画像への応用）

畳み込みニューラルネット(CNN)による画像認識

パターン認識、認識技術の活用事例

第12回：ディープラーニング（画像への応用）

学習済みモデルを活用した画像認識

ディープニューラルネットによる画像の生成

転移学習

第13回：生成AI

基盤モデル、大規模言語モデル、拡散モデル

Transformer、注意機構、自己教師あり学習

敵対的生成ネットワーク(GAN)

定期試験は実施しない

テキスト

竹村 他「データサイエンス入門 第2版（データサイエンス大系）」（学術図書出版社）（ISBN-10：4780607302）

参考書・参考資料等

寺田・辻・鈴木・福島「あたらしいPythonによるデータ分析の教科書」（翔泳社）（ISBN-10：4798158348）

学生に対する評価

授業中に出題された課題（50%）と積極的な取り組み姿勢（50%）の合計により、総合的に成績評価を行い、90点以上がS、80点以上90点未満がA、70点以上80点未満がB、60点以上70点未満がC、60点未満は不合格となる。授業中に出題する課題は、各回の授業内容に関連するプログラムの作成であり、授業中に教員が示したプログラムを参考にして作成を行い、授業支援システムを利用して指定した期日までに提出する。

授業科目名： 表計算とデータサイ エンス	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：安形 輝 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 数理、データ活用及び人工知能に関する科目		
授業のテーマ及び到達目標 表計算ソフトは、企業において各種集計やグラフ作成などの日常業務に利用されるだけでなく、データサイエンスにおいても基本的な統計分析やより高度な分析のためのデータの準備に活用される基本的なツールとなっている。この科目では、各種集計やグラフ作成などの基本的な利用法から始め、各種データの基本的な統計分析を統計的な背景も含めた上で理解し、表計算ソフトとプログラミングを組み合わせたより高度な活用法までを習得することを目的とする。			
授業の概要 Excelは、データの集計、分析、グラフの作成等の作業を効率的に行うことができるため、データサイエンスにおいて基本的なツールとなっている。実際のデータ分析を始める際に、まずExcelを用いて基本統計量や相関係数の計算、ヒストグラムや散布図の作成を行うことによってデータの概要を把握することができる。さらにExcelとPythonを組み合わせることで、Excel単体ではできないより複雑なデータ処理が可能となる。Excelの初歩を学んだ学生がこの授業を履修することにより、基本的な統計量の計算やデータの可視化とともに、Excelとマクロだけではできないより進んだデータ処理を身につけることができる。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回：データの入力と四則演算、セルの書式設定、簡単な関数 数値データと文字データ、連続データの入力 形式を指定したコピー、セルの中での配置、合計・平均の関数 第2回：絶対参照、グラフの基本 相対参照と絶対参照の違い 円グラフ、折れ線グラフ、棒グラフ、積み上げ棒グラフ 第3回：グラフの応用 グラフを構成する要素、行と列の入れ替え、ページの設定 可視化目的に応じたグラフの選択、適切な縦軸・横軸の選択 不適切に誇張されたグラフを作成しないこと 第4回：統計関数と数学関数の使い方 MAX(), MIN(), COUNT(), COUNTA(), RANK.EQ() ROUND(), ROUNDUP(), ROUNDDOWN(), INT()			

第5回：IF関数とその応用

SUMIF(), COUNTIF(), IFの入れ子、IFとAND、IFとOR

第6回：表引きの関数

CHOOSE(), VLOOKUP(), HLOOKUP(), INDEX()

第7回：データベース関数

DSUM(), DAVERAGE(), DMAX(), DMIN(), DCOUNT()

第8回：並べ替えとデータの抽出、条件付き書式

単純な並べ替え、複雑な条件による並べ替え、フィルター
値による条件付き書式、数式による条件付き書式

第9回：基本統計量

データの集計、平均、中央値、分散、標準偏差

第10回：度数分布表とヒストグラム

度数分布表の作成、区間の設定、ヒストグラムの作成

第11回：相関係数と散布図

散布図、共分散・相関係数、散布図行列、ヒートマップ

第12回：ExcelファイルのPythonによる扱い

データの読み込み、データの書き出し

第13回：ExcelとPythonによるデータ処理

データの集計、グラフの作成、PDFの作成

テキスト

森夏節・常見ひろこ『初歩から実用まで 100題で学ぶ表計算』日経BP社

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

平常点(40%)＋期末試験(40%)＋総合課題(20%)の合計により総合的に成績評価を行い、90点以上がS、80点以上90点未満がA、70点以上80点未満がB、60点以上70点未満がC、60点未満は不合格である。期末試験が未受験の場合は成績評価の対象とならないので注意すること。平常課題は、毎回の実習課題の中から指定した課題を表計算ソフトのファイルとして作成し、授業支援システムを利用して指定した期日までに提出する。総合課題については、各クラス担当教員の指示に従う。

授業科目名： 情報リテラシー	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：稲本 唯史 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>目的に応じて情報を主体的に収集・分析・加工・創造・発信することで問題解決を図る能力（情報リテラシー）はどの学問領域においても重要で、大学教育の基礎となるものである。今日の情報化社会において、情報通信技術（ICT）はコミュニケーション手段としてなくてはならないツールで、その活用能力を身に付けることは重要である。一方、ICTを活用していく上で大切な情報モラル、セキュリティ、著作権等の情報倫理についても、きちんと理解させることとする。更に、授業では情報の活用という観点から、様々なデータに隠された真の情報を読みとることの大切さについても学習させる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この科目は、大学初年次における情報教育の導入科目で、大学で学ぶ上で必要な情報リテラシー（スキル）を体得するとともに、情報関連の基礎・応用・発展科目へいざなう役割を担っている。まず、大学で学ぶ上で不可欠となる本学の情報環境やその利用法を知るほか、コンピュータや情報処理の基礎、プログラミングや表計算の基本（入門）について学ぶ。また、社会の隅々に浸透しているインターネットやウェブの仕組み、大学で求められるレポート作成法、情報を利用する上で必要な著作権について学ぶ。特に、レポート作成に関しては、形式、引用方法、文献データベースの検索、参考文献の記述方法などを詳しく学ぶほか、プレゼンテーション技術についても演習を通じて学ぶことにする。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：ガイダンス 本学の情報環境とその利用法、情報リテラシーの基本的な概念について学ぶ</p> <p>第2回：情報とは、情報リテラシーとは、情報処理入門 情報概念、情報リテラシーやコンピテンス（資質・能力）の基本概念に加え、ファイルの扱い方など、情報処理の基礎を学ぶ</p> <p>第3回：現代社会と情報セキュリティ 情報セキュリティの必要性、暗号化技術、ウイルス対策、インターネットオプションの設定について学ぶ</p> <p>第3回：著作権と情報倫理 著作権の基本概念や情報倫理、情報関連の法律（個人情報保護）などについて学ぶ</p> <p>第4回：プログラミング入門 プログラミングの基礎を学ぶほか、プログラムとはどのようなものかを体験する</p>			

第5回：表計算入門

表計算ソフトとしてのExcelの基本（計算・統計処理・グラフ作成等）を学ぶ

第6回：ウェブの世界入門

検索エンジンやウェブの起源・仕組み、動画配信、ブログ、SNS、クラウドについて学ぶ

第7回：レポート作成に必要な情報技術

大学生に求められるレポートの要件、レポートの構成や形式、ワープロの設定と入力方法等について学ぶ

第8回：各種データベースの検索・利用方法

レポート作成で使用する文献検索のツールとして、各種データベースやOPACの検索法、文献の引用方法や参考文献の書き方を学ぶ

第9回：プレゼンテーション入門

各自で作成したレポートプレゼンテーション（発表）のための基本（テーマ・シナリオ・話し方等）を学ぶ

第10回：プレゼンテーション資料の作成（1）

プレゼンテーションで使用するパワーポイント作成の基礎を学ぶ

第11回：プレゼンテーション資料の作成（2）

パワーポイントでの図表の作成・表示等について学ぶ

第12回：プレゼンテーション実習(1)

パワーポイントを用いて各自で作成したスライドの発表を行う（2-3分程度）

第13回：プレゼンテーション実習(2)

発表した内容のレビュー（評価・反省点など）を行う

定期試験は実施しない

テキスト

必要な資料に関しては授業中に適宜紹介する。

参考書・参考資料等

教職課程履修者については、「中学校学習指導要領（平成29年告示 文部科学省）」「高等学校学習指導要領（平成30年告示 文部科学省）」を参考資料とする。

学生に対する評価

成績評価は、各回の授業の実践記録である学習ポートフォリオに加え、各自で作成したレポート（成果物）や発表（プレゼンテーション）、さらには授業内で行う課題への取り組み（平常点）などを合計して評価する。なお、指定された提出日を過ぎた課題は減点する。具体的には、次のように評価する。

- ・ 各自の学習ポートフォリオ作成（実践記録） 40%
- ・ レポートの作成・プレゼンテーション（発表） 40%
- ・ 平常点（授業内での課題への取り組み） 20%

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：池亀直子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育の理念および教育に関する様々な理論、思想と歴史について知り、「教育とは何か」を深く考えるための基礎知識と、現代教育の課題を考えていくための柔軟な思考力を身につけることを授業のテーマとする。13回の授業を通じた到達目標は以下の3点である。</p> <p>(1) 国内外における教育の基礎思想を理解し、歴史の流れのなかで考えることができる。</p> <p>(2) 子どもの発達と学校教育制度、およびそれらを支える教育理論・学習理論について説明できる。</p> <p>(3) 現代の教育をめぐる多様な課題の歴史的展開を知り、自分なりの子ども観・教育観を構築する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>以下のテーマ・内容についてテキスト、参考文献、画像・映像資料を活用しながら講義を行う。</p> <p>(1) 教育の理念、子どもの発達・社会化と人間形成、諸外国および日本における子ども観と教育思想、教育理論、学習理論の歴史や教育課程の意義・編成等</p> <p>(2) 現代社会における教育の課題と展望等</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回 はじめに 教育とは何か</p> <p>第2回 教育の定義と理念の変遷</p> <p>第3回 人間の発達と子どもの養育</p> <p>第4回 前近代から近代社会へ ―社会変動と教育―</p> <p>第5回 教育の理念と教育法規</p> <p>第6回 子ども観と教育思想の歴史（1）家族・社会と教育の歴史</p> <p>第7回 子ども観と教育思想の歴史（2）近代の教育思想</p> <p>第8回 子ども観と教育思想の歴史（3）20世紀以降の教育・学習理論</p> <p>第9回 子ども観と教育思想の歴史（4）公教育の制度的展開</p> <p>第10回 子ども観と教育思想の歴史（5）21世紀型の学力</p> <p>第11回 現代の教育課題（1）多文化共生社会と教育</p> <p>第12回 現代の教育課題（2）社会的包摂と他者との共存</p> <p>第13回 まとめ ふたたび、教育とは何か</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>木村 元・小玉重夫・船橋一男 『教育学をつかむ』改訂版 有斐閣 2019年</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業時間中に資料を配布し、参考文献を随時紹介する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加状況および授業時間内外の学修状況（コメント等の課題の提出と内容）50%、期末試験50%の総合評価とする。なお、評価方法の詳細は初回授業で指示する。</p>			

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 池亀直子、三浦朋子 担当形態：クラス分け・単 独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教職を志す学生が、最初に履修する導入科目であり、教職課程における学びの基礎を構築するとともに教職の意義や職務内容を理解した上で、自身に必要な資質や取り組むべき課題を確認する。授業の目標は以下の通り。</p> <p>（１）教員の職務内容と責務、ライフコース、身分保障や研修に関わる諸制度と根拠法令などの学びを通し、教職の意義と役割を理解しその職務内容について知る</p> <p>（２）教職の専門性の基礎と大人・社会人としての子どもに対するまなざしを確立する</p> <p>（３）母校調査や恩師インタビューを通じた進路選択の機会を通じ自分自身の課題や目指す教師像について深く考える。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では教職の意義及び教員の役割を考察し、教員の職務内容、研修・サービス及び身分保障などについての理解を深め、教職への進路選択に資する機会を通して教職のイメージや教職に就くために必要な資質を明確化し、教職志望の意識を醸成する。文献・資料等を活用しながら以下の内容について取り上げる。</p> <p>（１）教職の意義と教員の役割、職務内容や根拠法令について</p> <p>（２）教員のサービス・責務、守秘義務や性暴力の防止、身分保障や研修に関わる諸制度について</p> <p>（３）母校調査や恩師インタビュー、講演会、自分史作成などをもとにした進路選択の再検討</p> <p>（４）教員の専門性や同僚性の理解、チームでの学校運営への対応について</p> <p>（５）現代の教育問題に対する教師の課題への気づきと対応策の考察</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：はじめに 教職とは</p> <p>第2回：教職を目指すということ</p> <p>第3回：中学校・高等学校の教師の職務</p> <p>第4回：日本における教職の特徴</p> <p>第5回：教員のサービスについて</p> <p>第6回：教員の権利と身分保障について</p> <p>第7回：教師の資質・能力を考える（1）学び続ける教師</p> <p>第8回：教師の資質・能力を考える（2）チームとしての学校</p> <p>第9回：教師の資質・能力を考える（3）専門家としての教師</p> <p>第10回：教師の資質・能力を考える（4）いじめに向き合う</p> <p>第11回：教師の資質・能力を考える（5）性の多様性をめぐる学校、教師の課題</p> <p>第12回：進路を考える 学校調査と恩師インタビュー</p> <p>第13回：授業のまとめ 教職の意義を考える</p>			
<p>テキスト</p> <p>指定しない。必要に応じて参考書・参考資料を活用する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>栗田充治・三浦朋子『教職入門 補訂版』亜細亜大学購買部 2017年</p> <p>佐久間亜希・佐伯胖 『現代の教師論』ミネルヴァ書房 2019年</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加状況および授業時間外の学修状況（各回の授業内容に対するコメント提出）</p>			

50%、報告課題（恩師インタビュー等の報告）20%、期末レポート 30%の総合評価とする。

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：池亀直子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 現代社会における子どもと学校をめぐる様々な状況や社会変動、またそれに伴う指導上の課題について知り、家庭・学校・地域社会と連携してそれらに対応していくための知識や思考力を身につけることをテーマとする。13回の授業を通じた到達目標は以下の3点である。 (1) 子どもと学校をめぐる現代社会の状況を深く知り、社会の変動に応じた生徒理解・指導の課題について考えることができる。 (2) 学校と地域社会の連携について考え、異種学校間の交流や地域の教育資源を活用した学習のあり方について理解を深める。 (3) 学校安全への対応をめぐる法律、危機管理、防災、事故対応等について事例研究を行いグループワークやディスカッションを通じて指導計画立案が出来るようになる。			
授業の概要 以下のテーマ・内容についてテキスト、参考文献、画像・映像資料を活用しながら講義を行う。また授業の後半にはグループワークとディスカッションを通じて事例研究とプレゼンテーションを実施する。 (1) 子どもと学校をめぐる現代社会の状況と国内外の教育事情・教育政策の動向 (2) 学校と地域社会の連携と開かれた学校作り、社会教育施設その他の地域の教育資源活用 (3) 学校安全への対応をめぐる法律、危機管理、防災、事故対応について			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回 はじめに 変動する社会と教育 第2回 子どもの生活環境と進路選択 第3回 諸外国の教育事情と教育政策 第4回 現代社会と学校（1）能力観と学力評価の課題 第5回 現代社会と学校（2）教育改革の動向 第6回 子どもの多様性（1）特別な支援を要する子ども 第7回 子どもの多様性（2）インクルーシブ教育システムの構築 第8回 学校と地域社会連携（1）学校と地域社会の連携・協働 第9回 学校と地域社会連携（2）異種学校間交流と地域の教育資源活用 第10回 学校と子どもの安全（1）生活安全・交通安全・災害安全 第11回 学校と子どもの安全（2）安全教育における指導 第12回 学校と子どもの安全（3）事例研究とグループ発表 第13回 まとめと全体ディスカッション			
テキスト 片山・内田・古田・牧野編『半径5mからの教育社会学』大月書店 2017年			
参考書・参考資料等 授業時間中に資料を配布し、参考文献を随時紹介する。			
学生に対する評価 授業における学修状況および授業外の学修状況（コメント等の課題の提出とその内容）60%、期末レポート40%の総合評価とする。			

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小湊真衣 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 ①乳幼児期から青年期にかけての心身の発達と学習の過程及び特徴を理解する。 ②学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。			
授業の概要 教職課程における教育心理学の位置づけを意識しながら、乳幼児期から青年期にかけての心身・認知・社会性の発達についての知識を習得する。学習、知能、パーソナリティ、欲求と動機づけ、記憶のメカニズム等について学ぶとともに、学習評価や授業づくり・集団づくりに必要な教育心理学的内容も取り上げる。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回：ガイダンス、発達の考え方、発達段階と発達課題 第2回：乳幼児期から幼児期にかけての心身の発達と学習の特徴 第3回：学童期の心身および社会性の発達と学習の特徴 第4回：思春期から青年期にかけての心身および認知の発達とパーソナリティ 第5回：欲求と動機づけ 第6回：学習に関する代表的理論1（連合説） 第7回：学習に関する代表的理論2（認知説） 第8回：学習に関する代表的理論3（社会的学習理論） 第9回：認知の過程と記憶のメカニズム 第10回：学級集団における仲間づくりと教師の役割 第11回：知能に関する諸理論と知能検査 第12回：パーソナリティに関する諸理論と性格検査 第13回：学習と教育の評価 定期試験			
テキスト 指定しない			
参考書・参考資料等 河野義章（編著）『教育心理学・新版～教職を目指す人への入門書』川島書店、2006年			
学生に対する評価 定期試験(50%)と課題・レポート(50%)によって評価する			

授業科目名： 特別支援教育概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：鈴木菖、鶴田 (間山)真紀 担当形態：オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別な支援を必要とする幼児・児童及び生徒に対する心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識・理解を深める。また、現代の日本社会における諸問題から、特別支援学校・特別支援学級の意義・役割と基本的な知識・理解、教員としての資質や態度の習得も目指す。加えて、障害はないが特別の教育的ニーズを有する幼児・児童及び生徒の把握や支援について理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援教育の基本的な考え方、特別支援学校の仕組みと実際の教育、小・中学校等における特別支援教育、個別の教育支援計画等について具体的に理解することを目的とする。様々な障害等により特別の支援を必要とする児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：特別支援教育とは（担当：鈴木） 第2回：知的障害児の教育について（担当：鈴木） 第3回：肢体不自由児の教育について（担当：鶴田） 第4回：病弱児の教育について（担当：鶴田） 第5回：視覚障害児の教育について（担当：鶴田） 第6回：聴覚障害児の教育について（担当：鈴木） 第7回：地域で共に学ぶということ（インクルーシブ教育）（担当：鈴木） 第8回：通級による指導と自立活動（担当：鈴木） 第9回：発達障害について（担当：鶴田） 第10回：個別の指導計画・教育支援計画を作成する意義と方法（担当：鶴田） 第11回：特別な教育的ニーズを要する子どもの多様性（担当：鈴木） 第12回：保護者との連携について（担当：鈴木） 第13回：特別支援教育コーディネーターの役割（担当：鶴田）</p>			
<p>テキスト</p> <p>授業内および配布資料にて適宜紹介する。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>大塚玲（2019）『インクルーシブ教育時代の教員をめざすための特別支援教育入門（第2版）』萌文書林 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編（幼稚部・小学部・中学部）海文堂出版 特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）海文堂出版</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>毎回の小レポート（65%）、期末レポート（35%）</p>			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小笠原 正太郎 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>【授業テーマ】</p> <p>学校教育の基礎知識として、教育課程について理解する。将来受講者自身が教員になることを意識し、教育課程編成の考え方と方法、学習指導要領の読み方と意義、カリキュラム・マネジメント、日本の学校教育における教育課程の諸問題などについて学ぶことを目標とする。</p> <p>【到達目標】</p> <p>(1) 教育課程の意義</p> <p>①学校教育における教育課程の本質や目的について理解している。</p> <p>②「学習指導要領」が社会状況やニーズによってどのように変化してきたのか、その流れと意義を把握するとともに、現行の学習指導要領の目標や内容が、現在の社会状況やニーズにどう対応しているかを理解している。</p> <p>③学校が家庭や地域社会と連携する重要性を認識し、学校の社会的役割を実現するために必要なものとして、教育課程の機能を理解している。</p> <p>(2) 教育課程の編成の方法</p> <p>①教育課程の編成方法の種類と、それぞれの利点と問題点を理解している。</p> <p>②授業内で提示された事例や自分で調査した事例をもとに、効果的な諸教科・諸領域の編成例を示す方法を理解している。</p> <p>(3) カリキュラム・マネジメント</p> <p>①学校が家庭や地域社会と連携する重要性を認識し、生徒の状態や学校を取り巻く諸条件を考慮し、長期的で教科横断的な教育課程の編成が必要なことを理解している。</p> <p>②学校目標に沿ったカリキュラム・マネジメントを実行するために、定期的に教育課程を評価することの方法・意味・意義を理解している。</p>			
授業の概要			
<p>「教育課程」とは、学校教育における全体的な計画を意味している。本授業はこれまで経験してきた学校教育を振り返ることから始まる。これまでの授業にはどのような「流れ」があり、どのような編成上の工夫があったのか、教員たちの努力の一端を垣間見ていきたい。</p> <p>教育課程の基準は「学習指導要領」に依っている。本講義では次に、学習指導要領やその周辺の資料の読解が求められる。学習指導要領はその時代の社会が望む国民形成の有り様を反映しており、現代社会の課題を理解する際に、有用なツールになる。これからの時代に即した学習指導要領の在り方がどのようなものであるべきなのか、批判的な見方も求められる。</p>			

重要な点は、教育課程の編成の主体は学校であるということである。現行の学習指導要領ではカリキュラム・マネジメントが掲げられており、自分たちが教育課程全体の設計に関わることが示されている。本講義では全体を通じて、教育課程がいかなる思想のもとにあるのか、その背後にどのような社会的背景があるのかといった知見や、どのような観点から教育課程の設計に関わっていくべきなのか、という視点を養っていくことを目指していく。

本授業においては、Think pair shareを始めとした小グループによるアクティブラーニング、討論会を通じた理解の促進、ミニッツペーパーを用いた受講生のリアクションに対する返答を取り入れる。授業内容はLMS（学習管理システム）を通じて事前共有を行う。

授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】

第1回：教育課程とは何か——教育の目的と教育課程の編成

第2回：教育課程における教科の在り方

第3回：教育課程における総合学習の位置づけ

第4回：教育課程における特別活動の位置づけ

第5回：近代日本・現代日本の教育課程（学習指導要領）の変遷

第6回：系統主義・経験主義と教育課程——討論会を含む

第7回：現行の学習指導要領の特徴とカリキュラム・マネジメント

第8回：資質・能力を伸ばす教育課程の在り方

第9回：学力調査に応じた教育課程の在り方

第10回：困難を抱える生徒のための教育課程——インクルーシブ教育の視点から

第11回：困難を抱える生徒のための教育課程——実践例から学ぶ

第12回：教育課程における評価の在り方

第13回：カリキュラム評価と学校評価

定期試験

テキスト

原清治・春日井敏之・篠原正典ほか監修『教育課程・教育評価』ミネルヴァ書房、2018年。

「中学校学習指導要領」2017年告示、「中学校学習指導要領解説」2017年、「高等学校学習指導要領」2018年告示、「高等学校学習指導要領解説」2018年。

参考書・参考資料等

中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」

その他、授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

リフレクションシート（授業ごとの振り返り）30%、平常点（意見発表・グループ討議への参加）10%、定期試験 60%

授業科目名： 総合的な学習の時間 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松村純子、増 田伸江 担当形態：オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等 に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習（探究）の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を通して、より良く課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成をめざすという「総合的な学習の時間」の意義とその指導計画作成の考え方を理解する。また、具体的な指導の仕方ならびに学習活動の評価に関する知識・技能について理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」の目標や学習方法などを理解するとともに、どのような学習課題や学習活動が展開されているかを解説し、グループで討議する。 ・グループで、探究的な課題の設定、情報の収集・整理、まとめ・発表・レポートの作成などを行う。実際に「フィールドワーク」を行い、課題解決案を含めたパワーポイント資料作成及び発表を行う。 ・個人による中学校の総合的な学習の時間の指導案（略案）を作成する。 			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：総合的な学習の時間の理解と経験の共有（教育課程における総合学習の時間の位置づけ、目標と内容を理解）（担当：松村・増田）</p> <p>第2回：総合的な学習の時間の各教科や領域などとの関連性を学ぶ（各教科等との関連性を踏まえた年間指導計画及び単元計画作成の留意点を理解）（担当：増田）</p> <p>第3回：中学校における総合的な学習の時間の指導計画と指導事例の協議（担当：増田）</p> <p>第4回：高等学校における総合的な探究の時間の指導計画と指導事例の協議（担当：増田）</p> <p>第5回：地域の特性に応じた活動展開の実践（1）（グループごとに武蔵野市の課題を設定）（担当：松村）</p> <p>第6回：地域の特性に応じた活動展開の実践（2）（グループごとに情報収集・フィールドワーク）（担当：松村）</p> <p>第7回：地地域の特性に応じた活動展開の実践（3）（グループごとに情報の整理）（担当：松村）</p> <p>第8回：地域の特性に応じた活動展開の実践（4）（グループごとにまとめ・課題解決に向けての行動を考える）（担当：松村）</p> <p>第9回：地域の特性に応じた活動展開の実践発表資料の作成（グループごとに発表資料の作成及び発表の練習）（担当：松村）</p> <p>第10回：地域の特性に応じた活動展開の実践発表(1)（前半グループの総合的な学習の時間の発表と評価シートを用いて、評価の方法及びその留意点を理解）（担当：松村）</p> <p>第11回：地域の特性に応じた活動展開の実践発表(2)（後半グループの総合的な学習の時間の発表と評価シートを用いて、評価の方法及びその留意点を理解）（担当：松村）</p> <p>第12回：自らが生活する地域の題材から、学習プランを作成（自らが生活する地域への関心と知識を高めるために、単元計画の作成）（担当：増田）</p> <p>第13回：自らが生活する地域の題材から、指導案（略案）を作成（自らが生活する地域への関心と知識を高めるために、指導案の作成）（担当：松村・増田）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験は実施しない 			
<p>テキスト</p> <p>『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』（東山書房）</p>			

『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 総合的な探究の時間編』（学校図書）

参考書・参考資料等

参考資料は、随時配布する。

学生に対する評価

- ①グループによる「探究の過程」の実践及び各自の地域を題材にした指導案（学習プラン）の作成：60%
- ②毎時の課題・振り返りカード 20%
- ③グループ活動への参加態度 20%

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松村純子 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 特別活動の歴史をふまえて、その目標と性格を理解し、内容構成、学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事と学校文化、生徒指導とのかかわり、教育法規、評価のあり方などを理解する。また、特別活動の指導の仕方を実際に体験して理解を深める。			
授業の概要 ・特別活動（中学校）の学習指導要領を中心に、学級活動、生徒会活動、学校行事の目標や内容、指導計画を解説し、理解を深める。 ・グループ討議や特別活動の指導の演習を取り入れ、学生が自ら気づき、行動する力を身に付ける。 ・グループで「中学校の集団宿泊学習」の指導計画を作成し、発表を行う。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回：特別活動の歴史（特別活動の改定の趣旨及び要点について理解） 第2回：特別活動の目標（中学校の特別活動の目標は、学級活動、生徒会活動、学校行事の3つの内容の目標を総括していることを理解） 第3回：特別活動の基本的な性格と教育活動全体における意義（特別活動と各教科、道徳科及び総合的な学習の時間などとの関連について理解） 第4回：学級活動の目標と内容(1)（学級活動の内容「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」について理解） 第5回：学級活動(1)の話し合い活動の指導と合意形成（合意形成を行う学級活動の話し合いとはどんな活動なのか、グループワークを通して理解する） 第6回：学級活動の目標と内容(2)(3)（学級活動の内容「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び安全」「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」について理解） 第7回：学級活動の目標と内容(2)(3)の話し合い活動の指導と意思決定（一人一人が主体的に意思決定を行う活動をグループワークを通して理解） 第8回：学級活動の目標と内容(2)(3)の実際の指導事例（学級活動の目標と内容(2)(3)の実際の指導事例を通して、具体的な指導の工夫について理解） 第9回：生徒会活動の目標と内容（生徒会活動は、学年・学級を越えて全ての生徒から構成される集団活動であることを理解するとともに、家庭・地域住民・関係機関との連携の在り方を理解） 第10回：学校行事の目標と内容（学校行事の内容「(1)儀式的行事」「(2)文化的行事」「(3)健康安全・体育的行事」「(4)旅行・集団的行事」「(5)勤労生産・奉仕的行事」について理解するとともに、家庭・地域住民・関係機関との連携の在り方を理解） 第11回：(4)旅行・集団的行事のねらいと内容（(4)旅行・集団的行事のねらいと指導上の留意点について理解するとともに、家庭・地域住民・関係機関との連携の在り方を理解） 第12回：「集団宿泊的行事」の指導計画を発表(1)（前半のグループで作成した指導計画を発表し、他のグループに評価や改善点を伝えることにより、評価・改善活動を理解） 第13回：「集団宿泊的行事」の指導計画を発表(2)（後半のグループで作成した指導計画を発表し、他のグループに感想や改善点を伝えることにより、評価・改善活動を理解） 定期試験は実施しない			
テキスト 『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』（東山書房）			

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編』（東京書籍）
参考書・参考資料等 参考資料は、随時配布する。
学生に対する評価 ①グループによる学校行事の「集団宿泊的行事」の指導計画を作成し、発表：50% ②毎時の課題・振り返りカード：30% ③グループ活動への参加態度：20%

授業科目名： 教育方法学（ICTの活用含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小湊真衣、小笠原正太郎 担当形態：オムニバス
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法 		
授業のテーマ及び到達目標 ①教育の目的に適した指導技術（情報通信技術を効果的に活用した学習指導を含む）や校務の推進の在り方について理解する。 ②情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基礎的な能力を身に付ける。 ③児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。			
授業の概要 上記に掲げた目標に到達するため、「授業設計」の観点から必要とされる力量形成に向けた演習を含む授業展開とする。学習指導についての基礎理論を習得し、それを実際に使用することによって実践力を身につけていくことを目指す。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回：ガイダンス、児童生徒に身に着けさせるべき能力と資質、授業の設計（学習形態を含む）（担当：小笠原・小湊） 第2回：授業の目標の立て方、共同学習の基本と留意点（担当：小笠原） 第3回：授業評価の種類と観点、学習指導における目標と指導および評価の結合（担当：小笠原） 第4回：学習意欲を高める導入とICTの活用（担当：小笠原） 第5回：発問、板書等の指導技術とICTの活用（担当：小笠原） 第6回：授業を効果的に展開させるICTの活用方法（担当：小湊） 第7回：児童生徒の情報活用能力（情報モラル含む）の育成（担当：小湊） 第8回：遠隔・オンライン教育と個別最適な学びの実践に向けたICTの活用（担当：小湊） 第9回：教材研究の方法とデジタル教材の活用（担当：小湊） 第10回：学習指導案の作成と検討（担当：小笠原） 第11回：学校におけるICT環境の整備と外部連携（担当：小湊） 第12回：特別の支援を必要とする児童生徒に対するICTの活用と留意点（担当：小湊） 第13回：ICTを活用した学習評価および校務の推進と情報セキュリティ（担当：小湊） 定期試験（担当：小湊）			
テキスト 文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説総論編」平成30年 文部科学省「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説総則編」2版、令和5年			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配布する			
学生に対する評価 定期試験（40%）と課題・レポート等（60%）によって評価する			

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：前嶋 深雪 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生徒指導を教育活動全体に位置付け、他の教職員や関係機関と連携して組織的に生徒指導を進めるための基礎的資質を培う。また、進路指導・キャリア教育の理論と方法を体系的に理解し、児童生徒が自ら将来を展望し、主体的に進路を選択・計画できるよう支援するための知識・技能を修得する。授業改善や体験活動、ガイダンス・カウンセリングの充実を通して、教育実践に生かせる力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の原理・理論を学びつつ、具体的な今日的課題への対応や学校全体での実践的展開を考察する。法令理解から、不登校・いじめなどの具体的な課題への対応、日常的な生徒指導の進め方、各種活動を通じた進路指導やキャリア教育まで幅広く取り上げ、体験活動の活用、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家も交えた学校・家庭・地域の連携の在り方等も具体的に検討する。総合的な理解を通して、生徒の成長と自立を支える実践的指導力の基礎を培う。</p>			
<p>授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】</p> <p>第1回：授業ガイダンス、生徒指導・進路指導・キャリア教育の基礎的な考え方と教育課程における位置づけ</p> <p>第2回：校則・懲戒・体罰等の生徒指導に関する法令の趣旨とそれに基づく指導</p> <p>第3回：不登校の子どもへの支援、生徒指導と教育相談の基礎的な考え方と違い</p> <p>第4回：いじめ問題や暴力行為への対応</p> <p>第5回：様々な生徒指導上の課題と専門家や関係機関との連携の在り方</p> <p>第6回：生徒の生活背景を踏まえた生徒指導の進め方（生活習慣の確立や規範意識の醸成を中心に）</p> <p>第7回：学校における各種活動を通じた生徒指導・キャリア教育の指導の計画と実践事例</p> <p>第8回：学校の教育活動全体を通じたキャリア教育</p> <p>第9回：キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方とキャリア教育の指導</p> <p>第10回：職業に関する体験活動などキャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメント</p> <p>第11回：児童及び生徒が抱える個別の進路指導・キャリア教育上の課題に向き合う指導</p> <p>第12回：生徒指導・進路指導・キャリア教育における組織的な指導体制及び家庭や関係機関との連携</p> <p>第13回：様々な背景を持つ生徒に対する生徒指導・進路指導・キャリア教育、授業総括</p>			
<p>テキスト</p> <p>文部科学省、2022、「生徒指導提要」他 授業内で必要に応じて資料を配布する</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>授業への参加度 30%</p> <p>課題への取り組み 20%</p> <p>期末レポート 50%</p>			

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小湊真衣
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
①学校における教育相談の意義と理論を理解する			
②教育相談を進める際に必要な基礎知識（カウンセリングに関する基本的事柄を含む）を理解する			
③教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する			
授業の概要			
教育相談は、幼児、児童および生徒が自己理解を深めたり、好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。本科目では、子どもの発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切にとらえ、支援するために必要な基礎知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的な知識を含む）を身につけることを目指す。			
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】			
第1回：ガイダンス、学校における教育相談の意義と課題、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論と概念			
第2回：学校教育におけるカウンセリングマインドの重要性、カウンセリングの基礎的な姿勢			
第3回：カウンセリングの基礎的な技法、傾聴訓練の実施			
第4回：カウンセリングにおける援助的・治療的アプローチとその体験			
第5回：カウンセリングにおける教育的・開発的アプローチとその体験			
第6回：子どもの不適応および問題行動の理解と支援			
第7回：不登校の理解と支援			
第8回：いじめの理解と対応			
第9回：非行および反社会的行動の理解と支援			
第10回：自傷に対する理解と支援			
第11回：こどもの自殺とその予防			
第12回：職種や校務分掌に応じて、子どもや保護者に対して教育相談を行う際の留意点			
第13回：校内における組織的な取り組み、地域の専門機関との連携			
定期試験			
テキスト 指定しない			
参考書・参考資料等 春日井敏之・伊藤美奈子（編）『よくわかる教育相談』ミネルヴァ書房、2011年			
学生に対する評価 定期試験（50%）と課題・レポート（50%）によって評価する			

シラバス：教職実践演習

シラバス： 教職実践演習（中・高）	単位数：2単位	担当教員名：池亀直子、三浦朋子、小湊真衣
科目	教育実践に関する科目	
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)
		○
		学校現場の意見聴取(※2)
		×
受講者数	40人	
教員の連携・協力体制 教職専門科目担当教員4名、教科専門科目担当教員2名、外部講師2名（現職教員、教育委員会関係者、その他教育に関わる専門職などを随時招聘）による合同授業		
授業のテーマ及び到達目標 本科目は、これまでの教職課程における学修・教育実習や教職課程外での様々な学修・活動を有機的に統合し、教員としての資質能力を身につけたかを確認する教職課程の「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる。 到達目標は以下の4点とする。 <ol style="list-style-type: none"> 1.履修カルテを活用して教職課程の学びを振り返り自己の課題を発見する 2.教育実習全体および研究授業の振り返りを行い、他の受講生によるコメントやディスカッションを通して指導力やコミュニケーション能力のさらなる向上をはかる 3.現代社会の教育問題について事例研究やグループディスカッション、ロールプレイング、外部講師による講演などから深く考察する 4.履修カルテを完成させ、教師・社会人としての資質能力を確認し、4年間の教職課程全体の学習を有機的に統合する 		
授業の概要 受講生は教員になる上での自己の課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補いその定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される。 授業全体を通して、教員・社会人としての責務や教育実習中の活動の振り返りとよりよい学習指導のあり方、生徒理解と学級経営、現代社会の教育課題（ICT教育や生徒指導、地域社会連携ほか）について考え、グループディスカッションや外部講師の講演などを通し理解を深めたうえで、履修カルテを完成させて4年間の教職課程における学びを有機的に統合する。		
授業計画【1授業回あたりの時間（105分）】 第1回：はじめに 学修状況の確認と課題の設定 第2回：学校調査と課題の探求（1）ICT教育の実態に関するグループワーク 第3回：学校調査と課題の探求（2）ICT教育の展望に関する発表 第4回：模擬授業（1）教育実習の振り返り 第5回：模擬授業（2）授業・教材研究と再構成 第6回：模擬授業（3）報告及び模擬授業実践 第7回：現職教員との意見交換（1）現代社会の教育問題 第8回：現職教員との意見交換（2）教員の専門性について 第9回：現代の教育課題に関する事例研究（1）生徒理解と学級経営 第10回：現代の教育課題に関する事例研究（2）いじめ対応と教育相談のロールプレイング 第11回：現代の教育課題に関する事例研究（3）教科横断型授業の実践 第12回：現代の教育課題に関する事例研究（4）学校と地域社会連携 第13回：まとめ 資質能力の確認		
テキスト 使用しない。必要に応じて配布・指示する。		
参考書・参考資料等 亜細亜大学教職課程履修カルテ		
学生に対する評価 グループワークと調査報告 20%、ロールプレイ実践と授業レポート 40%、実習報告と模擬授業 20%、外部講師との意見交換および報告レポート 10%、履修カルテによる課題発見と資質能力の確認 10%を授業担当教員全員が多角的な視点から総合的に評価する。		

※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認

- し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。